

## 第2学年

### 教養系教育・基礎科学教育科目

社 会 学 .....	65
物 理 学 .....	66
化 学 .....	68
英 語 II .....	69
医 療 英 会 話 .....	70
歯科医療人間学 II .....	71
情報リテラシー II .....	73

### 生命科学教育科目

口 腔 解 剖 学 .....	75
口 腔 解 剖 学 実 習 .....	77
解 剖 学 .....	78
解 剖 学 実 習 .....	80
口 腔 組 織 学 .....	81
口 腔 組 織 学 実 習 .....	84
口 腔 生 理 学 .....	85
口 腔 生 理 学 実 習 .....	88
口 腔 生 化 学 I .....	89
口 腔 感 染 免 疫 学 I .....	90
歯 科 薬 理 学 I .....	92
生体材料・歯科材料学 I .....	93

### 口腔科学教育科目

歯 冠 彫 刻 実 習 .....	94
-------------------	----

# 社会学

科目責任者：小久保嘉代（非常勤講師）

担当教員：小久保嘉代（非常勤講師）

## 1. 科目の概要

近代社会において、産業革命や身分制度の崩壊を背景として科学的・合理的世界観が広まり、様々な社会現象をより客観的に把握・分析しようとする態度が現れた。これが「社会学」のはじまりである。社会は複数の人間、そして集団が互いに関わり合うことを前提として成り立つ。

そこでこの授業においても、前半15回においては「役割」や「家族」、「集団・組織」など我々が日々の生活の中で比較的身近に接する事象や関係性に注目し、関連する議論を紹介する。後半15回においては社会学が分析対象とする諸事象のなかでも特に「地域社会」に焦点を据えて、近代から現代にかけての大規模な社会構造の変動を読み解くことを目指す。

## 2. 一般目標

現代社会における様々な課題への関心と分析力を涵養するために、社会学の基礎知識を学び、現代社会の基本的構造、様々な集団・組織の構成原理、人々のつながり・生活様式のあり方についての今日的な課題について理解できるようになることを目標とする。

## 3. 到達目標

- 1) 社会学の基礎知識を学ぶ。
- 2) 現代における家族と地域社会、農村と地域社会、都市化・都市と地域社会における今日的様態とその課題を把握し、同じ時代を生きる生活者として、職業人として、社会学的考察力・分析力を身につける。

## 4. 講義形態

プリントおよび視聴覚資料等を用いて講義を行う。毎回、授業の際には簡単な課題を課す。前期・後期各1回、中間レポートを課す予定である。

## 5. 時間外学習

- 予習：各回のテーマについてインターネットおよび関連する文献等によって事前に調べる。(30分)  
 復習：授業で用いた資料および板書を再読し、授業で解説した概念や用語について自分なりに説明できるようにする。(60分)

## 6. 評価方法

授業の際の課題 (30%)、中間レポートの評価 (20%)、期末試験の成績 (50%) により評価し、65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

特になし。教員作成の資料を用いる。

## 8. 参考書

授業中に適宜紹介する。

## 9. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当者
1	4月6日	社会学とはじめ	近代社会の成立と社会学の誕生	小久保嘉代
2	4月13日	社会学の「巨人」たち(1)	19世紀から20世紀初頭社会学の概説	〃
3	4月20日	社会学の「巨人」たち(2)	20世紀半ば以降の社会学の概説	〃
4	4月27日	めぐる走馬灯-プレイバック20世紀	社会変動についての諸理論の紹介	〃
5	5月9日 ※月曜7限 16:30~	人口が、社会を作る?!	「人口」の基礎概念と人口がもたらす社会変動	〃
6	5月11日	社会移動と社会階層	社会階層についての基礎理論の紹介	〃
7	5月18日	「生活」とはなにか	近現代の生活様式・生活構造	〃
8	5月25日	「家族」とは(1)	家族の種類について	〃
9	6月1日	「家族」とは(2)	家族の種類と機能について	〃
10	6月8日	地域社会	シカゴ学派・日本の論者の議論	〃
11	6月15日	社会的行為と役割	「自己」と「他者」に関する議論について	〃
12	6月22日	ジェンダー	ジェンダー(社会的性)についての議論の紹介	〃
13	6月29日	社会集団と組織	社会集団の分類と議論	〃
14	7月6日	社会関係資本と社会的連帯	社会関係資本についての議論の紹介	〃
15	7月13日	社会問題のとらえ方	「逸脱」と「ラベリング」に関する議論の紹介	〃
16	9月7日	地位社会と人々(1)	「いえ」と「むら」	〃
17	9月14日	地域社会と人々(2)	「住まい」の変化	〃
18	9月21日	地域社会と生活組織(1)	変わりつつある農村の「いえ」と「世帯」	〃
19	9月28日	地域社会と生活組織(2)	兼業化と農業生産組織	〃
20	10月5日	地域社会と生活組織(3)	町内会組織と地域社会	〃
21	10月12日	地域社会と生活組織(4)	NPOと地域社会	〃
22	10月19日	地域社会と文化(1)	学校と地域社会	〃
23	10月26日	地域社会と文化(2)	社会教育と地域社会	〃
24	11月2日	地域社会と文化(3)	むらの民俗・まちの民俗	〃
25	11月9日	地域社会と文化(4)	地域の資源とその管理	〃
26	11月16日	いまとこれからの地域社会(1)	郊外の誕生と老い	〃
27	11月30日	いまとこれからの地域社会(2)	地域社会と医療	〃
28	12月7日	いまとこれからの地域社会(3)	地域社会と福祉	〃
29	12月14日	いまとこれからの地域社会(4)	地域医療・福祉の課題	〃
30	12月21日	いまとこれからの地域社会(5)	防災と地域社会	〃

# 物 理 学

科目責任者：青木 潔

担当教員：青木 潔

## 1. 科目の概要

歯科医療において、治療に使用される歯科材料の特性や放射線診断に用いられる X 線管の構造などを理解するためには、それらの物理的電気的な性質を知る必要がある。

前期は、電気と磁気の性質について、その基礎的な知識の習得のために、いろいろな電磁気現象を学び、電場と磁場の概念を把握し、その多くの法則から一組の基礎方程式によって簡潔に表現できることを知る。

## 2. 一般目標

物質の物理的、電磁的な性質に対する基礎的な知識を修得するために学習する。

## 3. 到達目標

- 1) 物質の電氣的、磁氣的な性質に対する基礎的な概念や原理・法則を理解し、これを説明することができることを示す。
- 2) 物質の物理的性質に対する基礎的な概念や原理・法則を理解し、これを説明することができることを示す。

## 4. 講義形態

講義後に演習を行う。

## 5. 時間外学習

予 習：教科書の授業内容のところをよく読んでくる。(10分)

復 習：講義後に行った演習の見直しなど、講義で行った内容の復習を十分に行う。

その他：

## 6. 評価方法

定期試験の成績 (80%)、授業中に行った演習 (10%)、出席・授業態度 (10%) により評価し、65 点以上を合格とする。

## 7. 教科書

赤野松太郎, 鮎川武二, 藤城敏幸, 村田 浩 著「医歯系の物理学(第2版)」東京教学社 2015年

## 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	4月5日	静電気(1)	電荷とクーロンの法則 国: 必須-17-イ	青木 潔
2	4月12日	静電気(2)	電場と電気力線, ガウスの法則 国: 必須-17-イ	〃
3	4月19日	静電気(3)	電位と等電位面 国: 必須-17-イ	〃
4	4月25日	静電気(4)	導体と電気容量, 誘電体 国: 必須-17-イ	〃
5	4月26日	定常電流(1)	電流と電気抵抗 国: 必須-17-イ	〃
6	5月10日	定常電流(2)	抵抗の接続と電池の起電力 国: 必須-17-イ	〃
7	5月17日	定常電流(3)	ジュール熱と電力 国: 必須-17-イ	〃
8	5月24日	磁場と電流(1)	静磁場, 磁性体 国: 必須-17-イ	〃
9	5月31日	磁場と電流(2)	電流がつくる磁場 国: 必須-17-イ	〃
10	6月7日	磁場と電流(3)	磁場による力 国: 必須-17-イ	〃
11	6月14日	電磁誘導(1)	電磁誘導 国: 必須-17-イ	〃
12	6月21日	電磁誘導(2)	自己誘導, 相互誘導 国: 必須-17-イ	〃
13	6月28日	交流(1)	交流起電力と交流 国: 必須-17-イ	〃
14	7月5日	交流(2)	交流回路 国: 必須-17-イ	〃
15	7月12日	電磁波	電磁波の発生 国: 必須-17-イ	〃
16	9月5日	固体の変形(1)	応力とひずみ 国: 必須-17-イ	〃
17	9月12日	固体の変形(2)	応力-ひずみ線図, 弾性係数 国: 必須-17-イ	〃
18	9月26日	固体の変形(3)	熱応力, 材料の機械的性質 国: 必須-17-イ	〃
19	10月3日	固体の変形(4)	弾性エネルギー, 力のモーメント 国: 必須-17-イ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
20	10月17日	固体の変形(5)	せん断力と曲げモーメント 国:必須-17-イ	青木 潔
21	10月24日	熱放射と光子(1)	熱放射, 光電効果 国:必須-17-イ	〃
22	10月31日	熱放射と光子(2)	コンプトン効果, 二重性 国:必須-17-イ	〃
23	11月7日	電子と原子(1)	電子の比電荷と素電荷 国:必須-17-イ	〃
24	11月14日	電子と原子(2)	原子の構造, 原子スペクトル 国:必須-17-イ	〃
25	11月21日	電子と原子(3)	ボーアの原子理論 国:必須-17-イ	〃
26	11月28日	原子核	原子核の構造 国:必須-17-イ	〃
27	12月5日	X線(1)	X線の発生 国:必須-17-イ	〃
28	12月12日	X線(2)	X線の性質と作用 国:必須-17-イ	〃
29	12月19日	放射線(1)	放射線の種類 国:必須-17-イ	〃
30	12月20日	放射線(2)	放射線の線量 国:必須-17-イ	〃

# 化 学

科目責任者：阿部 匡聡

担当教員：阿部 匡聡

## 1. 科目の概要

生体内で働く物質や、私たちの身近にある物質（燃料、塗料、プラスチック製品、衣類、食品、医薬品など）には、多くの有機化合物が存在している。さらに、歯科医学で用いられる、抗炎症薬・鎮痛薬・抗菌薬・麻酔薬などの薬物の大部分は有機化合物であり、印象剤や歯冠用硬質レジンなどの歯科材料にも有機高分子化合物が利用されている。代謝過程での種々の生体反応も、基本的な有機化合物の反応と根本的な機構は同じであり、有機化学の知識・概念は、生命現象の分子機理解に不可欠である。

本科目では、基本的な有機化合物の構造・性質・合成・反応について解説する。

## 2. 一般目標

生命現象の分子機理解、歯科医学関連薬物・材料の構造・性質の理解への基礎を築くため、基本的な有機化合物の構造・性質・反応についての知識・概念を習得する。

## 3. 到達目標

- 官能基の種類により化合物を分類し、各化合物の性質・反応を説明できる。
- 異性体について説明し、構造式で示すことができる。
- 置換反応、付加反応、脱離反応、酸化還元反応、ラジカル反応を説明し、反応式を記述できる。
- 芳香族化合物の性質・反応について、脂肪族化合物との違いを示し、説明できる。

## 4. 講義形態

教科書の内容編成に沿い、板書により解説する。適宜、プリントを用いた問題演習を導入する。

## 5. 時間外学習

予習：教科書を読み、扱われる内容の概略に触れておく。(10分)

復習：教科書やノートを読み返し、学習内容の理解を深め、知識・概念を覚える。(30分)

その他：内容を理解し覚える上で、構造式や反応式を書いてみることに特に有効である。

## 6. 評価方法

定期試験 (90%)、レポート (5%)、受講態度 (5%) により評価し、65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

伊與田正彦 他 著 「基礎から学ぶ有機化学」 朝倉書店 2013年

## 8. 参考書

中川徹夫 著 「化学の基礎 一元素記号からおさらいする化学の基本一」 化学同人 2010年

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	4月8日	有機化合物の成り立ち	官能基, 構造式, 異性体 コ: C-1-1)①, ②, ③ 国: 総論Ⅲ-1-ア	阿部 匡聡
2	4月11日	有機分子の形成	共有結合, 混成軌道	〃
3	4月15日	有機分子の立体構造	鏡像異性体, ジアステレオマー, シーストランス異性体	〃
4	4月22日	分子中の電子の偏りと非局在化	結合の極性, 誘起効果, 共鳴効果	〃
5	5月6日	アルカン(1)	アルカンの構造・性質	〃
6	5月13日	アルカン(2)	アルカンの反応	〃
7	5月20日	アルケンとアルキン(1)	アルケンとアルキンの構造・性質	〃
8	5月27日	アルケンとアルキン(2)	アルケンの合成・反応	〃
9	6月3日	アルケンとアルキン(3)	アルキンの合成・反応	〃
10	6月10日	ハロゲン化アルキル(1)	ハロゲン化アルキルの構造・性質	〃
11	6月17日	ハロゲン化アルキル(2)	ハロゲン化アルキルの合成	〃
12	6月24日	ハロゲン化アルキル(3)	ハロゲン化アルキルの求核置換反応・脱離反応	〃
13	7月1日	アルコール(1)	アルコールの構造・性質	〃
14	7月8日	アルコール(2)	アルコールの合成	〃
15	7月15日	アルコール(3)	アルコールの反応	〃
16	9月2日	エーテル(1)	エーテルの構造・性質	〃
17	9月9日	エーテル(2)	エーテルの合成・反応	〃
18	9月16日	芳香族化合物(1)	芳香族化合物の構造・性質	〃
19	9月23日	芳香族化合物(2)	芳香族求電子置換反応	〃
20	9月30日	芳香族化合物(3)	置換ベンゼンの反応と配向効果	〃
21	10月7日	カルボニル化合物(1)	カルボニル化合物の構造・性質	〃
22	10月14日	カルボニル化合物(2)	カルボニル化合物の合成	〃
23	10月21日	カルボニル化合物(3)	カルボニル化合物の酸化・還元・付加反応	〃
24	10月28日	カルボニル化合物(4)	アルドール縮合	〃
25	11月4日	カルボン酸とその誘導体(1)	カルボン酸の構造・性質 コ: C-1-1)③ 国: 総論Ⅲ-1-ア	〃
26	11月11日	カルボン酸とその誘導体(2)	カルボン酸の合成・反応	〃
27	11月18日	カルボン酸とその誘導体(3)	カルボン酸誘導体の合成・反応	〃
28	11月25日	アミン(1)	アミンの構造・性質	〃
29	12月2日	アミン(2)	アミンの合成	〃
30	12月9日	アミン(3)	アミンの反応	〃

## 英語Ⅱ

科目責任者：長峯 英樹(非常勤講師)

担当教員：長峯 英樹(非常勤講師)

### 1. 科目の概要

本講義では、英字新聞の社説を活用し、英語を英語の語順ですばやく理解できるスキルの強化を目的としている。基礎的な語彙や時事表現を学ぶことはもちろん、サイトトランスレーション（英語の語順で文頭から理解する）トレーニングを行うことにより、英文読解のスピードと精度を向上させる。

### 2. 一般目標

読解スピードと精度を向上させるために不可欠な基礎的な語彙と文法を復習する。

英文を読むことに対する抵抗感を軽減させるために、比較的平易な英文を用いる。一方で、学んだ時事英語表現を再確認するためメディアを活用した授業も取り入れる。

### 3. 到達目標

- 1) 語彙・構文、時事表現を覚える
- 2) 基礎的な文法を復習する
- 3) 英文理解スピードの向上させる
- 4) 英文記事に慣れる

### 4. 講義形態

基礎的な読解力向上のために、サイトトランスレーションを丁寧に行うことにより頻出語彙や時事表現、基礎文法を学ぶ。

### 5. 時間外学習

予習：特に必要なし。

復習：講義で学んだ表現や語彙を何度も音読すること。(30分)

その他：映画や雑誌など、日常的にできるだけ多く英語に触れるよう心がけること。

### 6. 評価方法

Review & Final Test (80%)、出席および授業態度・貢献度 (20%) により評価し、65点以上を合格とする。

### 7. 教科書

毎回、プリントを配布するため指定教科書はない。

### 8. 参考書

自分が使いやすい辞書を持参すること。

## 9. 授業内容と日程

回	月日	タイトル	授業内容	担当者
1	4月8日		政治(1)	長峯 英樹
2	4月15日		経済(1)	〃
3	4月22日		文化(1)	〃
4	5月6日		社会(1)	〃
5	5月9日		Review Test 1	〃
6	5月13日		政治(2)	〃
7	5月20日		経済(2)	〃
8	5月27日		文化(2)	〃
9	6月3日		社会(2)	〃
10	6月10日		Review Test 2	〃
11	6月17日		政治(3)	〃
12	6月24日		経済(3)	〃
13	7月1日		文化(3)	〃
14	7月8日		社会(3)	〃
15	7月15日		Review Test 3	〃
16	9月2日		政治(4)	〃
17	9月9日		経済(4)	〃
18	9月16日		文化(4)	〃
19	9月23日		社会(4)	〃
20	9月30日		Review Test 4	〃
21	10月7日		政治(5)	〃
22	10月14日		経済(5)	〃
23	10月21日		文化(5)	〃
24	10月28日		社会(5)	〃
25	11月4日		Review Test 5	〃
26	11月11日		政治(6)	〃
27	11月18日		経済(6)	〃
28	11月25日		文化(6)	〃
29	12月2日		社会(6)	〃
30	12月9日		Final Test	〃

## 医療英会話

科目責任者：濱田 智弘

担当教員：竜 立雄, 濱田 智弘, 御代田 駿

### 1. 科目の概要

医療は国際化の時代を迎えている。研究や論文執筆という専門的な場面だけでなく、日常臨床においても歯科医師が英語を使ってコミュニケーションがとれるニーズが高まっている。そこで、歯科における日常臨床に特化した医療英会話のトレーニングを行う。

### 2. 一般目標

日本および海外の医療現場で活躍するために、日常業務で必要となる医療英会話を専門的に学習する。

### 3. 到達目標

- 1) 臨床で必要な会話を英語で行う。
- 2) 歯科疾患およびその治療法を英語で説明する。

### 4. 講義形態

シャドーイング, ディクテーション, ロールプレイを通して基本的な医療英語およびコミュニケーション能力を習得する。

### 5. 時間外学習

予習：教科書の該当箇所を事前に読んでくること。(30分)

復習：教科書に付属するCDを繰り返し聴いて復習すること。(30分)

その他：

### 6. 評価方法

定期試験 (80%) と授業態度 (20%) により評価し、65点以上を合格とする。

### 7. 教科書

土田和範 他 著 「歯科医院での実用英会話」 第1版 2014年

### 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	9月2日	Handling Calls at Reception	受付での電話応対 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	濱田 智弘
2	9月9日	Service at Reception / Consultation	受付での初診応対 / 問診時の応対 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	竜 立雄
3	9月16日	In the X-ray Room / Pulpectomy	レントゲン室での会話 / 抜髄を行う時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	御代田 駿
4	9月23日	Dental Extraction	拔牙を行う時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	濱田 智弘
5	9月30日	At the Reception Counter	受付での応対 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	竜 立雄
6	10月7日	Explanations on Dental Cavities / Insertion of Dental Composite	齲蝕の説明 / レジン充填時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	濱田 智弘
7	10月14日	Treatment of the Infected Root Canal	感染根管治療時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	御代田 駿
8	10月21日	Disease of the Gums	歯周病の説明 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	濱田 智弘
9	10月28日	Periodontal Examination	歯周検査時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	〃
10	11月4日	Tooth Brushing Instructions	ブラッシング指導時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	御代田 駿
11	11月11日	Scaling	スケーリング時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	〃
12	11月18日	Crown Restoration	歯冠修復時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	濱田 智弘
13	11月25日	Bridge / False Teeth	ブリッジによる治療時の会話 / 義歯による治療時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	御代田 駿
14	12月2日	Orthodontic Treatment	矯正治療時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	竜 立雄
15	12月9日	Dental Implant Treatment	インプラント治療時の会話 コ:A-7-1) 国:必修-17-ウ	濱田 智弘

## 歯科医療人間学Ⅱ

科目責任者：瀬川 洋

担当教員：瀬川 洋, 清野 晃孝, 中川 敏浩, 竜 立雄, 鈴木 敏城, 唐沢 明, 吉田いくよ (非常勤講師), 鈴木 俊子 (非常勤講師)

### 1. 科目の概要

歯科医療人間学 (Dental Practice Human Science) は、本学歯学部目的である「高度な専門知識と技術を備えた人間性豊かな歯科医師の養成」を実践する学問であり、高度専門職業人 (プロフェッショナル) としての歯科医師である前に社会人としての素養、教養および社会適応能力を高揚し、自らのホスピタリティマインドに加えて、患者中心の医療を全人的に捉えるため、身体面、心理面、社会面、倫理面の各要素を総合的かつ包括的に理解し、「歯科医療の安全・安心・信頼の文化」を醸成することにある。

### 2. 一般目標

人間性豊かな優れた歯科医師となるために、大学で学ぶ目的を明確化し、歯学医療現場にふれ、基本的なコミュニケーションや日常習慣の重要性を認識する態度、知識および技能を修得する。

### 3. 到達目標

- 1) 医療人として謙虚な態度と傾聴力を養う。
- 2) 患者の訴えを正確に聞き取る。
- 3) 平易な言葉で順序立てて説明する。
- 4) 医療現場で必要な言葉でコミュニケーションをする。

### 4. 講義形態

グループおよびペアによる学修を行う。授業形態はプリントを配布し、レポート提出形式をとることもあるので受動的な学習でなく、必ず参加が義務づけられる能動的学習である。

### 5. 時間外学習

予習：シラバスで内容を確認する。また、人と接する時は状況を把握し、意識して対応することを日頃から心がける。(30分)

復習：プリント学修や実演したことを自然に実践できるように日々訓練をする。

### 6. 評価方法

各講義演習で行われた小テスト、視覚による評価、レポート、見学評価をすべて100点満点換算して点数を算出する (①)。最終日に行われる各コースの形成的評価をすべて100点満点に換算して点数を算出する (②)。①に0.5を乗じ (③)、②に0.5を乗じ (④)、③と④を加算して65点以上を合格とする。

### 7. 教科書

なし

### 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	4月5日	2-A インフォームドコンセント 1①	インフォームドコンセントの意味と必要性 コ:A-4-① 国:必修-8-イ-a~f	瀬川 洋 鈴木 敏城
2	4月5日	2-B 障がいについて1①	障がいを体験する① コ:A-7-2)-①②③④ 国:必修-8-イ-a~f	中川 敏浩 竜 立雄
3	4月12日	2-A 障がいについて1②	障がいを体験する① コ:A-7-2)-①②③④ 国:必修-8-イ-a~f	〃
4	4月12日	2-B インフォームドコンセント 1②	インフォームドコンセントの意味と必要性 コ:A-4-① 国:必修-8-イ-a~f	瀬川 洋 鈴木 敏城
5	4月19日	2-A 禁煙支援教育①	歯科領域における禁煙支援と保健指導を考える E-1-6-(1)-⑥ 国:各論I-6-オ	〃
6	4月19日	2-B 障がいについて2①	障がいを体験する② コ:A-7-2)-①②③④ 国:必修-8-イ-a~f	中川 敏浩 竜 立雄
7	4月26日	2-A 障がいについて2②	障がいを体験する② コ:A-7-2)-①②③④ 国:必修-8-イ-a~f	〃
8	4月26日	2-B 禁煙支援教育②	歯科領域における禁煙支援と保健指導を考える E-1-6-(1)-⑥ 国:各論I-6-オ	瀬川 洋 鈴木 敏城
9	5月9日	2-A 食育と食習慣① *月曜日6・7限目	食生活を含めた生活習慣を考える E-1-6-(1)-⑦ 国:各論I-7-ア~エ	〃
10	5月9日	2-B 障がいについて3① *月曜日6・7限目	障がい者と共存 コ:A-7-2)-①②③④ 国:必修-8-イ-a~f	中川 敏浩 竜 立雄
11	5月10日	2-A 障がいについて3②	障がい者と共存 コ:A-7-2)-①②③④ 国:必修-8-イ-a~f	〃
12	5月10日	2-B 食育と食習慣①	食生活を含めた生活習慣を考える E-1-6-(1)-⑦ 国:各論I-7-ア~エ	瀬川 洋 鈴木 敏城
13	5月17日	2-A 医療人の装身具①	身だしなみについて <ワールドカフェ> コ:A-3-①②③ 国:必修-8-イ-a~f	清野 晃孝
14	5月17日	2-B 歯科医療とホスピタリティ ①	医療の基本を考える コ:E-4-4)-①⑤ 国:必修-16-オ-c~f	瀬川 洋
15	5月24日	2-A 歯科医療とホスピタリティ ②	医療の基本を考える コ:E-4-4)-①⑤ 国:必修-16-オ-c~f	〃
16	5月24日	2-B 医療人の装身具②	身だしなみについて <ワールドカフェ> コ:A-3-①②③ 国:必修-8-イ-a~f	清野 晃孝
17	5月31日	2-A 医療人とアサーション①	医療コミュニケーションの進め方 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a~f	唐沢 明

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:)、出題基準記号(国:)	
18	5月31日	2-B 聞き手の基本的な態度①	傾聴力とホスピタリティ能力 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 竜 立雄
19	6月7日	2-A 聞き手の基本的な態度②	傾聴力とホスピタリティ能力 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	〃
20	6月7日	2-B 医療人とアサーション②	医療コミュニケーションの進め方 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	唐沢 明
21	6月14日	2-A 表現・自分自身を知るⅡ-1①	自分の表現の仕方 基礎 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 竜 立雄
22	6月14日	2-B 医療面接と傾聴力①	好感度、信頼度を上げる会話とは? コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	唐沢 明
23	6月21日	2-A 医療面接と傾聴力②	好感度、信頼度を上げる会話とは? コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	〃
24	6月21日	2-B 表現・自分自身を知るⅡ-1②	自分の表現の仕方 基礎 コ:A-7-1)-①②③ 国:必修-8-イ-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 竜 立雄
25	6月28日	2-A 表現・自分自身を知るⅡ-2①	自分の表現の仕方 実践 コ:A-6-1)-① 国:必修-14-イ-a ~ f	〃
26	6月28日	2-A 医療面接の実践トレーニング①	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 ＜グループワーク＞ コ:A-6-1)-① 国:必修-14-イ-a ~ f	唐沢 明
27	7月5日	2-B 表現・自分自身を知るⅡ-2②	自分の表現の仕方 実践 コ:A-6-1)-① 国:必修-14-イ-a ~ f	吉田いくよ 鈴木 俊子 竜 立雄
28	7月5日	2-B 医療面接の実践トレーニング②	話す・傾聴・状況判断・クレーム処理 ＜グループワーク＞ コ:A-6-1)-① 国:必修-14-イ-a ~ f	唐沢 明
29	7月12日	形成的評価	形成的評価試験を行う。	瀬川 洋 竜 立雄 唐沢 明 吉田いくよ 鈴木 俊子 中川 敏浩
30	7月12日	形成的評価	形成的評価試験を行う。	〃

## 情報リテラシーⅡ

科目責任者：宇佐美晶信

担当教員：阿部 匡聡, 石田 喜紀, 宇佐美晶信, 大須賀謙二, 中川 敏浩, 前田 豊信, 茂呂祐利子

### 1. 科目の概要

コンピュータに対して、歯学生は操作を習熟し、そして学習にも応用することは必須である。そこで学生個人にコンピュータを用いた視覚素材も含めた問題作成をおこなわせる。また、学習効率を向上させるために、チュートリアル教育の要素も取り入れ、課題に対して学生個人が問題を作成した後、その問題について他の学生がブラッシュアップを行い、互いに検討する。ブラッシュアップした問題は教員が解説を行い、フィードバックすることで、各課題の理解度を深めることが可能となる。

### 2. 一般目標

歯学基礎科目の知識をより深く習得するために、コンピュータを駆使して問題作成、ブラッシュアップを行い、さらに教員からの問題解説を受講することで学習する。

### 3. 到達目標

- 1) 各科目の課題に対して的確な問題を作成する。
- 2) 問題を的確に説明する。
- 3) 他学生が作成した問題に対して的確な意見を述べる。

### 4. 講義形態

コンピュータを用いて、出された課題について学生個人で問題を作成し、その問題に対するブラッシュアップを行う。作成した問題に対しては最終的に教員からも解説を行う。

### 5. 時間外学習

予習：問題作成に先立って予習を行う。(30分)

復習：問題解説後に予習を行う。(30分)

その他：なし

### 6. 評価方法

定期試験、追・再試験を60%、問題提出状況を20%、授業態度を20%とし、65点以上を合格とする。

### 7. 教科書

- ・浅沼直和 他 著 「ビジュアル口腔生理学」 学建書院 2008
- ・磯川桂太郎 他 著 「組織学・口腔組織学」 第3版 わかば出版 2010
- ・明坂年隆 他 著 「カラーアトラス 口腔組織発生学」 第3版 わかば出版 2009
- ・伊與田正彦 他 著 「基礎から学ぶ有機化学」 朝倉書店 2013
- ・安孫子宣光 他 著 「スタンダード生化学・口腔生化学」 第2版 学建書院 2009
- ・鈴木一臣 他 著 「スタンダード歯科理工学」 第4版 学研書院 2008

### 8. 参考書

- ・高橋和人 他著 「図説 歯の解剖学」 医歯薬出版 2010

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
1	4月8日	人体の機能	人体の構造に関する問題作成 コ：C-2-3) 国：総論Ⅲ-1-カ, 2-ア～ケ	宇佐美晶信 阿部 匡聡 茂呂祐利子 大須賀謙二
2	4月15日	〃	作成した問題のブラッシュアップ 〃	〃
3	4月22日	〃	問題解説 〃	〃
4	5月6日	人体の微細構造	人体の微細構造に関する問題作成 コ：C-2-3)-(1)①②③④⑤⑥⑦⑧ C-2-3)-(2)②③④-(3) ①③⑥ C-2-3)-(4) ①②③④ C-2-3)-(5)④⑦⑨⑩ C-2-3)-(6) ①②③, C-2-3)-(7) ①② C-2-3)-(8)①, C-2-3)-(9)① C-2-3)-(10)①, C-2-3)-(11) ①②③ 国：総論Ⅲ-1-ア～ク, 2-ア～ケ	宇佐美晶信 阿部 匡聡 茂呂祐利子 中川 敏浩
5	5月9日	〃	作成した問題のブラッシュアップ 〃	〃
6	5月13日	〃	問題解説 〃	〃
7	5月20日	生体分子	生体分子の構造と機能に関する問題作成 コ：C-1-1) 国：総論Ⅲ-1-ア, エ	宇佐美晶信 阿部 匡聡 茂呂祐利子
8	5月27日	〃	作成した問題のブラッシュアップ 〃	〃
9	6月3日	〃	問題解説 〃	〃
10	6月10日	歯の形態	歯の形態に関する問題作成 コ：E-3-1)-② 国：総論Ⅳ-4-ア～コ	〃
11	6月17日	〃	作成した問題のブラッシュアップ 〃	〃
12	6月24日	〃	問題解説 〃	〃
13	7月1日	人体の機能	遺伝子に関する問題作成 コ：C-1 (1), (2) 国：必-6-ア 総-Ⅲ-1	宇佐美晶信 前田 豊信 阿部 匡聡 茂呂祐利子
14	7月8日	〃	作成した問題のブラッシュアップ 〃	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
15	7月15日	人体の機能	問題解説	宇佐美晶信 前田 豊信 阿部 匡聡 茂呂祐利子
			コ：C-1 (1), (2) 国：必-6-ア 総-Ⅲ-1	
16	9月2日	口腔の生理	口腔の生理に関する問題作成	宇佐美晶信 大須賀謙二 前田 豊信 茂呂祐利子
			コ：E-2-1), 2) 国：総論IV-3-ア～タ, 4-エ～コ, 5-ア	
17	9月9日	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃
			〃	
18	9月16日	〃	問題解説	〃
			〃	
19	9月23日	口腔の微細構造	口腔の微細構造に関する問題作成	宇佐美晶信 中川 敏浩 前田 豊信 茂呂祐利子
			コ：E-2-2)-①②⑤③ E-3-1)-①③④⑤ 国：総論IV-4-ア～オ, キ, ケ, コ	
20	9月30日	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃
			〃	
21	10月7日	〃	問題解説	〃
			〃	
22	10月14日	頭頸部の構造	頭頸部の構造に関する問題作成	宇佐美晶信 前田 豊信 茂呂祐利子
			コ：E-2-1)-①②③④ 国：総論IV-1-ア～シ	
23	10月21日	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃
			〃	
24	10月28日	〃	問題解説	〃
			〃	
25	11月4日	人体の機能	酵素・代謝・ホルモンに関する問題作成	〃
			コ：C-1-1 国：必-6-ア 総-Ⅲ-1	
26	11月11日	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃
			〃	
27	11月18日	〃	問題解説	〃
			〃	
28	11月25日	歯科材料の諸性質	歯科材料の諸性質に関する問題作成	宇佐美晶信 石田 喜紀 前田 豊信 茂呂祐利子
			コ：D-1, 2 国：総論XI-1-ア～ク	
29	12月2日	〃	作成した問題のブラッシュアップ	〃
			〃	
30	12月9日	〃	問題解説	〃
			〃	

# 口腔解剖学

科目責任者：宇佐美晶信

担当教員：宇佐美晶信， 齊藤 博， 田原 充（非常勤講師）

## 1. 科目の概要

歯および口腔領域の解剖学について詳細に学んでいく。

## 2. 一般目標

ヒトの歯および口腔領域の正常な形態と構造に関する知識を習得する。

## 3. 到達目標

- 1) 永久歯・乳歯の形態を説明できる。
- 2) 歯列・咬合について説明できる。
- 3) 口腔領域の筋・神経・脈管および口腔内臓の構造と機能について説明できる。
- 4) 顎関節の構造と機能について説明できる。

## 4. 講義形態

プリントを用いた講義を行う。

## 5. 時間外学習

予習：シラバスを確認して事前に講義内容について教科書・参考書で予習を行う。(30分)

復習：プリントを復習し，教科書で各自知識をまとめる。(30分)

その他：小テストは80%未満の者に対して，再テストを行う。(30分)

## 6. 評価方法

前期後期の各定期試験（各30%），前期の途中で永久歯，乳歯について小テストと中間試験を行い（永久歯，乳歯をそれぞれ20%とする），65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

## 8. 参考書

高橋和人 他 著「図説 歯の解剖学」第2版 医歯薬出版

松村譲児，島田和幸 編著「イラスト顎顔面解剖学」中外医学社

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	4月7日	口腔解剖学総論1	口腔解剖学とは コ：E-3-1-①③④⑤ 国：総論IV-4-ア～コ	宇佐美晶信
2	4月7日	口腔解剖学総論2	歯の種類，歯列，歯式と方向用語 コ：E-3-1-①③④⑤ 国：必修6-ウ-a～d	〃
3	4月14日	永久歯の形態①	切歯の形態 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
4	4月14日	永久歯の形態②	切歯のスケッチ，スケッチ方法論 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
5	4月21日	永久歯の形態③	犬歯の形態 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
6	4月21日	永久歯の形態④	犬歯のスケッチ，歯の彫刻の実際 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
7	4月28日	永久歯の形態⑤	上顎小臼歯の形態 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
8	4月28日	永久歯の形態⑥	下顎小臼歯の形態 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
9	5月12日	永久歯の形態⑦	上顎第一大臼歯の形態 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
10	5月12日	永久歯の形態⑧	上顎第二大臼歯の形態 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
11	5月16日	永久歯の形態⑨	下顎第一大臼歯の形態 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
12	5月16日	永久歯の形態⑩	下顎第二大臼歯の形態 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
13	5月19日	永久歯の形態⑪	歯牙スケッチ試験 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
14	5月19日	永久歯の形態⑫	永久歯まとめ試験 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
15	5月26日	乳歯の形態①	乳歯総論 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
16	5月26日	乳歯の形態②	乳歯の形態1 コ：E-3-1-② 国：必修6-ウ-a b	〃
17	6月2日	歯の形態異常	歯の形態異常 コ：E-3-1-② 国：各論II-3-ア～コ	〃
18	6月2日	慰霊式説明	慰霊式説明 死体解剖保存法 コ：A-2 国：必修1-ア-a～c	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
19	6月9日	乳歯の形態③	乳歯の形態2, 歯齡 コ: E-3-1-② 国: 必修6-ウ-a b	宇佐美晶信
20	6月9日	歯列, 咬合	歯列, 咬合 コ: E-2-2)-③ 国: 総論IV-2-サ	〃
21	6月16日	乳歯の形態④	乳歯まとめ試験 コ: E-3-1-② 国: 必修6-ウ-a b	〃
22	6月16日	臨床関連	臨床からみた口腔解剖 コ: E-3-1)-② 国: 必修6-ウ-a, b	田原 充
23	6月23日	神経学①	神経学総論 コ: C-2-3)-(5)-① 国: 総論Ⅲ-2-キ	宇佐美晶信
24	6月23日	神経学②	中枢神経1・総論 コ: C-2-3)-(5)-④ 国: 総論Ⅲ-2-キ	〃
25	6月30日	神経学③	中枢神経2・大脳 コ: C-2-3)-(5)-④ 国: 総論Ⅲ-2-キ	〃
26	6月30日	口腔の解剖①	口腔内臓総論 コ: E-2-2)-① 国: 総論Ⅲ-2-キ	〃
27	7月7日	神経学④	中枢神経3・脳幹, 小脳 コ: C-2-3)-(5)-④ 国: 総論Ⅲ-2-キ	〃
28	7月7日	口腔の解剖②	口蓋, 口峽 コ: E-2-2)-① 国: 必修6-イ-a ~ g	〃
29	7月14日	神経学⑤	中枢神経4・脊髄 コ: C-2-3)-(5)-④ 国: 総論Ⅲ-2-キ	〃
30	7月14日	口腔の解剖③	咽頭・唾液腺 コ: E-2-2)-④⑤ 国: 必修6-イ-a ~ c	〃
31	9月5日	神経学⑥	末梢神経1・脳神経総論 コ: C-2-3)-(5)-①②③ 国: 必修6-イ-f	〃
32	9月12日	神経学⑦	末梢神経2・脳神経I, II, III, IV, VI, VIII コ: C-2-3)-(5)-①②③ 国: 必修6-イ-f	〃
33	9月26日	神経学⑧	末梢神経3・脳神経VII コ: E-2-1)-④ 国: 必修6-イ-f	〃
34	10月3日	神経学⑨	末梢神経4・脳神経VII, XII コ: C-2-3)-(5)-①②③ 国: 必修6-イ-f	〃
35	10月17日	神経学⑩	末梢神経5・脳神経V コ: E-2-1)-④ 国: 必修6-イ-f	〃
36	10月24日	神経学⑪	末梢神経6・脳神経V コ: E-2-1)-④ 国: 必修6-イ-f	〃
37	10月31日	神経学⑫	末梢神経7・脳神経IX, X, XI コ: C-2-3)-(5)-①②③ 国: 必修6-イ-f	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
38	11月7日	神経学⑬	末梢神経・自律神経 コ: C-2-3)-(5)-②③ 国: 総論Ⅲ-2-キ	宇佐美晶信
39	11月14日	神経学⑭	末梢神経・脊髄神経 コ: C-2-3)-(5)-④ 国: 総論Ⅲ-2-キ	〃
40	11月21日	神経学⑮	末梢神経まとめ コ: C-2-3)-(5) 国: 総論IV-1-エ	〃
41	11月28日	頭頸部の筋①	表情筋と咀嚼筋 コ: E-2-1)-② 国: 総論IV-1-イ	〃
42	12月5日	頭頸部の筋②	舌筋, 舌骨上筋, 舌骨下筋 コ: E-2-1)-② 国: 総論IV-1-イ, エ	斉藤 博
43	12月12日	顎関節	顎関節の機能と構造 コ: E-2-1)-⑤ 国: 必修6-イ-h	宇佐美晶信
44	12月19日	嚥下	嚥下関連の解剖学 コ: E-2-1) 国: 総論IV-1-ア~カ	〃
45	12月20日	筋膜隙	臨床関連の解剖学 コ: E-2-1)-①②③④ 国: 総論IV-1-ア~カ	〃

## 口腔解剖学実習

科目責任者：宇佐美晶信

担当教員：宇佐美晶信、齊藤 博、芹川 雅光、田原 充（非常勤講師）

### 1. 科目の概要

前半の7回の実習で口腔解剖学の講義で学習した歯の形態をスケッチによって2次的に、石膏彫刻によって3次的に理解する。

後半の8回の実習では体幹、四肢を含む骨学の実習を行う。

### 2. 一般目標

永久歯・乳歯の特徴を理解し、2次元および3次元で表現する。

### 3. 到達目標

- 1) 歯の形態を2次的にスケッチできる。
- 2) 歯の形態を3次的に彫刻できる。
- 3) 骨、特に頭蓋骨の形態および構造を説明できる。

### 4. 講義形態

永久歯の三倍大スケッチおよび彫刻を切歯、犬歯、小白歯、大白歯の順に行う。

骨学はテキストと骨標本を対比しつつ、各部位の名称を確認する。

### 5. 時間外学習

予習：シラバスで実習予定を確認し、次回実習内容について教科書で予習を行う。(30分)

復習：実習を行った歯や骨について形態および名称をチェックする。(30分)

その他：彫刻の提出物が基準に満たない場合は再彫刻を行う。(60分)

### 6. 評価方法

各回の実習内容で評価を行い(60%) 歯牙スケッチテスト(20%)、骨学実習まとめ(20%)の総計が65点以上を合格とする。

### 7. 教科書

井出吉信 監修 「口腔顎顔面解剖ノート」第2版 学建書院

### 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	4月7日	口腔解剖学実習①	オリエンテーション, WAX棒彫刻	宇佐美晶信 齊藤 博 芹川 雅光
			コ: E-3-1 国: 総論IV-4-ア, イ	
2	4月14日	口腔解剖学実習②	切歯の彫刻	〃
			コ: E-3-1-② 国: 必修6-ウ-a b	
3	4月21日	口腔解剖学実習③	犬歯の彫刻	〃
			コ: E-3-1-② 国: 必修6-ウ-a b	
4	4月28日	口腔解剖学実習④	小白歯のスケッチと彫刻	〃
			コ: E-3-1-② 国: 必修6-ウ-a b	
5	5月12日	口腔解剖学実習⑤	上顎第一・第二大臼歯のスケッチと上顎第一大臼歯の彫刻	〃
			コ: E-3-1-② 国: 必修6-ウ-a b	
6	5月19日	口腔解剖学実習⑥	下顎第一・第二大臼歯のスケッチと下顎第一大臼歯の彫刻	〃
			コ: E-3-1-② 国: 必修6-ウ-a b	
7	5月23日	骨学実習①	骨の貸出と確認	〃
			コ: C-2-3)-(2)-① 国: 必修6-イ-e	
8	5月26日	骨学実習②	頭蓋冠, 頭蓋底	〃
			コ: C-2-3)-(2)-② 国: 必修6-イ-e	
9	6月2日	口腔解剖学実習⑦	彫刻まとめ	〃
			コ: E-3-1-② 国: 必修6-ウ-a b	
10	6月9日	骨学実習③	蝶形骨, 側頭骨, 眼窩	〃
			コ: E-2-1)-① 国: 必修6-イ-e	
11	6月16日	骨学実習④	上顎骨, 口蓋骨, 鼻腔	宇佐美晶信 齊藤 博 芹川 雅光 田原 充
			コ: E-2-1)-① 国: 必修6-イ-e	
12	6月23日	骨学実習⑤	下顎骨, 舌骨	宇佐美晶信 齊藤 博 芹川 雅光
			コ: E-2-1)-① 国: 必修6-イ-e	
13	6月30日	骨学実習⑥	体幹と四肢の骨	〃
			コ: C-2-3)-② 国: 必修6-イ-e	
14	7月7日	骨学実習⑦	頭蓋底の孔・管と翼口蓋窩	〃
			コ: E-2-1)-① 国: 必修6-イ-e	
15	7月14日	骨学実習⑧	骨学実習まとめ	〃
			コ: C-2-3)-② 国: 必修6-イ-e	

# 解剖学

科目責任者：宇佐美晶信

担当教員：宇佐美晶信，齊藤 博，佐藤 功二（非常勤講師），井出 吉昭（非常勤講師）

## 1. 科目の概要

解剖学では肉眼による人体の観察によってその正常な形態と構造を学んでいく。

## 2. 一般目標

人体の正常な形態と構造に関する知識を習得する。

## 3. 到達目標

- 1) 身体の部位と方向用語を説明できる。
- 2) 身体を構成する器官系について説明できる。
- 3) 人体を構成する骨，脈管，筋，内臓，神経の形態と構造を説明できる。
- 4) 鰓弓および顎顔面の発生を説明できる。

## 4. 講義形態

プリントと教科書を用いた講義を行う。

## 5. 時間外学習

予習：シラバスを確認して事前に講義内容について教科書・参考書で予習を行う。(30分)

復習：プリントを復習し，教科書で各自知識をまとめる。(30分)

その他：小テストは80%未満の者に対して，再テストを行う。(30分)

## 6. 評価方法

前期，後期の定期試験の他に骨学，内臓学，神経学の小テストおよび中間試験を行う（骨学，内臓学，神経学をそれぞれ20%とする）。65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

藤田恒太郎 著「入門人体解剖学」第4版 南江堂 2009年

佐藤達夫 訳「あたらしい人体解剖学アトラス」第1版 MEDS; 2009年

## 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月5日	解剖学総論	解剖学とは，方向用語 コ：C-2-1)-①② 国：総論Ⅲ-2-ア～ケ	宇佐美晶信
2	4月12日	骨学①	骨学総論 コ：C-2-3)-(2)-②③④ 国：総論Ⅳ-1-ア	〃
3	4月19日	骨学②	頭蓋冠・頭蓋底 コ：E-2-1)-① 国：総論Ⅳ-1-ア	〃
4	4月25日	骨学③	蝶形骨，篩骨 コ：E-2-1)-① 国：総論Ⅳ-1-ア	〃
5	4月26日	骨学④	側頭骨 コ：E-2-1)-① 国：総論Ⅳ-1-ア	〃
6	5月10日	骨学⑤	上顎骨，口蓋骨 コ：E-2-1)-① 国：総論Ⅳ-1-ア	〃
7	5月17日	骨学⑥	下顎骨，舌骨 コ：E-2-1)-① 国：総論Ⅳ-1-ア	〃
8	5月24日	骨学⑦	骨の発生と骨化様式 コ：C-2-3)-(1)-⑥ 国：総論Ⅴ-4-ア，イ	〃
9	5月31日	骨学⑧	体幹の骨 コ：C-2-3)-(2)-① 国：総論Ⅲ-2-ア	〃
10	6月7日	骨学⑨	上肢の骨 コ：C-2-3)-(2)-① 国：総論Ⅲ-2-ア	〃
11	6月14日	骨学⑩	下肢の骨 コ：C-2-3)-(2)-① 国：総論Ⅲ-2-ア	〃
12	6月21日	骨学⑪	骨学まとめ試験 コ：C-2-3)-(2) 国：総論Ⅲ-2-ア	〃
13	6月28日	脈管学①	脈管学総論 コ：C-2-3)-(3)-①②③ 国：総論Ⅳ-1-ウ	〃
14	7月5日	脈管学②	動脈 コ：C-2-3)-(3)-⑤ 国：総論Ⅳ-1-ウ	〃
15	7月12日	脈管学③	静脈，リンパ コ：C-2-3)-(3)-⑤⑥ 国：総論Ⅳ-1-ウ	〃
16	9月1日	内臓学①	筋学1 コ：C-2-3)-(2)-① 国：総論Ⅳ-1-イ	〃
17	9月1日	局所解剖学1	人体解剖学実習1のための解説 コ：C-2-1)-①② 国：総論Ⅲ-2-ア，エ，キ	〃
18	9月8日	内臓学②	筋学2 コ：C-2-3)-(2)-① 国：総論Ⅳ-1-イ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
19	9月8日	局所解剖学2	人体解剖学実習2のための解説 コ:C-2-3)-(2)-① 国:総論Ⅲ-2-ア, エ, キ	宇佐美晶信
20	9月15日	内臓学③	消化器1 コ:C-2-3)-(6)-① 国:総論Ⅲ-2-イ	〃
21	9月15日	局所解剖学3	人体解剖学実習3のための解説 コ:C-2-3)-(2)-① 国:総論Ⅲ-2-ア, エ, キ, ケ	〃
22	9月29日	内臓学④	消化器2 コ:C-2-3)-(6)-②③ 国:総論Ⅲ-2-イ	〃
23	9月29日	局所解剖学4	人体解剖学実習4のための解説 コ:C-2-3)-(5)-① 国:総論Ⅲ-2-ア, エ, キ	〃
24	10月6日	内臓学⑤	呼吸器 コ:C-2-3)-(7)-①② 国:総論Ⅲ-2-ウ	〃
25	10月6日	局所解剖学5	人体解剖学実習5のための解説 コ:C-2-3)-(7)-①② 国:総論Ⅲ-2-ア, ウ, エ, キ	〃
26	10月13日	内臓学⑥	感覚器1 コ:C-2-3)-(4)-③④ 国:総論Ⅲ-2-イ	〃
27	10月13日	局所解剖学6	人体解剖学実習6のための解説 コ:C-2-3)-(3)-① 国:総論Ⅲ-2-ア, エ, キ	〃
28	10月20日	内臓学⑦	感覚器2, 舌 コ:C-2-3)-(4)-①② 国:総論Ⅲ-2-ク	〃
29	10月20日	局所解剖学7	人体解剖学実習7のための解説 コ:C-2-3)-(2)-①, -(3)-⑤, E-2-1)-④ 国:総論Ⅲ-2-ア, イ, エ, キ	〃
30	10月27日	解剖学実習まとめ1	人体解剖学実習の復習 コ:C-2-3) 国:総論Ⅲ-2-ア～エ, キ, ケ	〃
31	10月27日	局所解剖学8	人体解剖学実習8のための解説 コ:C-2-3)-(2)-① 国:総論Ⅲ-2-ア, エ, キ	〃
32	11月10日	内臓学⑧	泌尿生殖器 コ:C-2-3)-(9)-①, (10)-① 国:総論Ⅲ-2-オ, カ	〃
33	11月10日	局所解剖学9	人体解剖学実習9のための解説 コ:C-2-3)-(5)-④ 国:総論Ⅲ-2-ア, エ, キ	〃
34	11月17日	内臓学⑨	内分泌器 コ:C-2-3)-(8)-① 国:総論Ⅲ-2-ケ	〃
35	11月17日	局所解剖学10	人体解剖学実習10のための解説 コ:C-2-3)-(6)-①② 国:総論Ⅲ-2-ア, イ, ウ, オ, カ, キ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
36	11月24日	内臓学まとめ	内臓学まとめ試験 コ:C-2-3)	斉藤 博
37	11月24日	局所解剖学11	人体解剖学実習11のための解説 コ:E-2-1)-①②, 2)-② 国:総論Ⅲ-2-ア, ウ～ケ	宇佐美晶信
38	12月1日	発生①	舌 コ:E-2-3)-①～③ 国:総論Ⅴ-1-ア, イ	佐藤 功二
39	12月1日	局所解剖学12	人体解剖学実習12のための解説 コ:E-2-1)-②, 2)-①②⑤ 国:総論Ⅲ-2-ア, エ, カ, キ	宇佐美晶信
40	12月8日	発生②	鰓弓 コ:E-2-2)-② 国:総論Ⅴ-3-ウ	〃
41	12月8日	局所解剖学13	人体解剖学実習13のための解説 コ:E-2-1)-③④⑤ 国:総論Ⅲ-2-ア, エ, キ	〃
42	12月15日	発生③	顎顔面の発生 コ:E-2-3)-①②⑤ 国:総論Ⅴ-3-ア, イ	〃
43	12月15日	局所解剖学14	人体解剖学実習14のための解説 コ:C-2-3) 国:総論Ⅲ-2-ア, ウ, エ, キ	〃
44	12月22日	臨床解剖	頭頸部の臨床解剖 コ:E-2-1)-①④ 国:必修6-イ-a～h	井出 吉昭
45	12月22日	局所解剖学15	人体解剖学実習15のための解説 コ:C-2-3)-(5)-④, -(6)-①②, E-2-1)-①～⑤, 2)-② 国:総論Ⅲ-2-ア, ウ, エ, キ	〃

## 解剖学実習

科目責任者：宇佐美晶信

担当教員：宇佐美晶信，齊藤 博，芹川 雅光，佐藤 功二（非常勤講師）

### 1. 科目の概要

人体を用いた解剖学の実習を行う。

この実習は「死体解剖保存法」に則って行われる。解剖学の知識を深めるだけでなく、医の倫理を考え、死者に対する尊厳を学ぶ場でもある。

### 2. 一般目標

解剖学の講義で学んだ知識を深める。

### 3. 到達目標

- 1) 身体の部位と方向用語を説明できる。
- 2) 身体を構成する器官系について説明できる。
- 3) 人体を構成する骨，脈管，筋，内臓，神経の形態と構造を説明できる。

### 4. 講義形態

特に頭頸部を中心とした人体解剖実習を行う。

各回の内容手順は同日の午前中の講義で解説する。

### 5. 時間外学習

予習：事前に教科書で解剖手順を確認しておく。(30分)

復習：実習を行った部位について形態および名称をチェックする。(30分)

その他：小テストは80%未満の者に対して，再テストを行う。(30分)

### 6. 評価方法

各回の実習内容を次回の小テストで評価を行い（60%）2回の実習まよめの筆記試験（30%），発表（10%）の総計が65点以上を合格とする。

また授業態度が「死体解剖保存法」に抵触すると考えられた場合には，授業の受講を認めないことがありうる。

### 7. 教科書

寺田春水，藤田恒太郎 著「解剖実習の手引き」南山堂

### 8. 参考書

上條雍彦 著「口腔解剖学1～5」アナトーム社

### 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容		担 当 者
			コアカリ記号(コ:)，出題基準記号(国:)		
1	9月1日	人体解剖学実習1	解剖実習オリエンテーション体表観察，頸部皮神経・皮静脈	コ:C-2-1)-①② 国:総論Ⅲ-2-ア，エ，キ	宇佐美晶信 齊藤 博 芹川 雅光
2	9月8日	人体解剖学実習2	頸部浅層・中層の筋・脈管・神経 浅胸筋，腹部の筋	コ:C-2-3)-(2)-① 国:総論Ⅲ-2-ア，エ，キ	〃
3	9月15日	人体解剖学実習3	頸部深層の筋・脈管・神経，甲状腺，腋窩，大腿伸筋，大腿三角	コ:C-2-3)-(2)-① 国:総論Ⅲ-2-ア，エ，キ，ケ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容		担 当 者
			コアカリ記号(コ:)，出題基準記号(国:)		
4	9月29日	人体解剖学実習4	耳下腺，顔面神経，鎖骨下動静脈，腕神経叢，上肢屈筋	コ:C-2-3)-(5)-① 国:総論Ⅲ-2-ア，エ，キ	宇佐美晶信 齊藤 博 芹川 雅光
5	10月6日	人体解剖学実習5	表情筋，顔面動静脈，肺，開胸	コ:C-2-3)-(7)-①② 国:総論Ⅲ-2-ア，ウ，エ，キ	〃
6	10月13日	人体解剖学実習6	耳下腺神経叢，顔面動静脈，後縦隔，心臓	コ:C-2-3)-(3)-① 国:総論Ⅲ-2-ア，エ，キ	〃
7	10月20日	人体解剖学実習7	顔面神経，舌骨上筋，開腹，腹部動脈	コ:C-2-3)-(2)-①，-(3)-⑤，E-2-1)-④ 国:総論Ⅲ-2-ア，イ，エ，キ	〃
8	10月27日	人体解剖学実習8	人体解剖学実習まとめ試験① 後頭筋浅層，背部の浅層・中層の筋	コ:C-2-1)-①②，-2-3)-(2)-①，-(3)-①，-(5)-① 国:総論Ⅲ-2-ア～エ，キ，ケ	〃
9	11月10日	人体解剖学実習9	後頭下三角，頭部切断，脊髓，殿部深層	コ:C-2-3)-(5)-④ 国:総論Ⅲ-2-ア，エ，キ	〃
10	11月17日	人体解剖学実習10	咽頭，頭部矢状断，腹部内臓	コ:C-2-3)-(6)-①② 国:総論Ⅲ-2-ア，イ，ウ，オ，カ，キ	〃
11	11月24日	人体解剖学実習11	眼窩，舌，鼻腔，後腹壁，横隔膜，腰神経叢	コ:E-2-1)-①②，2)-② 国:総論Ⅲ-2-ア，ウ～ケ	〃
12	12月1日	人体解剖学実習12	咀嚼筋，顎動脈，骨盤内臓	コ:E-2-1)-②，2)-①②⑤ 国:総論Ⅲ-2-ア，エ，カ，キ	宇佐美晶信 齊藤 博 芹川 雅光 佐藤 功二
13	12月8日	人体解剖学実習13	顎関節，側頭下窩，下顎管，中枢神経	コ:E-2-1)-③④⑤ 国:総論Ⅲ-2-ア，エ，キ	宇佐美晶信 齊藤 博 芹川 雅光
14	12月15日	人体解剖学実習14	口蓋，舌下神経管，三叉神経，喉頭，気管	コ:E-2-1)-①④ 国:総論Ⅲ-2-ア，ウ，エ，キ	〃
15	12月22日	人体解剖学実習15	人体解剖学実習まとめ試験②三叉神経，副鼻腔，後片付け及び納棺	コ:C-2-3)-(5)-④，-(6)-①②，E-2-1)-①～⑤，2)-② 国:総論Ⅲ-2-ア～ケ	〃

# 口腔組織学

科目責任者：渡邊 弘樹

担当教員：渡邊 弘樹, 中川 敏浩, 安部 仁晴, 井出 吉信 (客員教授),  
市川 博之 (客員教授), 山本 仁 (客員教授)

## 1. 科目の概要

組織学は、細胞・組織・器官について、正常構造の微細形態を明らかにする学問である。この組織学の一部として、細胞を総合的に分子レベルでとらえる細胞生物学と、受精に始まり、死に至るまでの継続的過程を明らかにする発生学がある。この二つの分野を包括的に捉えて組織学講義を行う。口腔組織学の理解なくして口腔諸器官における疾患ならびに全身に至る疾病を把握することは不可能である。口腔組織学において、如何に知識を融合させて修得できるか否かが、歯科医師としての成否を握っているといっても過言ではない。本教科は、他の基礎科目の基盤であり、さらに診断、治療方針のエビデンスとして役立てなければならない学問である。

## 2. 一般目標

疾病を治療対象とした基礎知識を得るために、細胞、組織、人体諸器官、さらに歯と歯周組織をはじめ口腔諸器官の正常構造と微細構造を機能と結びつけ、それらの発生過程、加齢変化を理解する。

## 3. 到達目標

- 1) 細胞および上皮、結合、軟骨、骨、筋、神経組織について構造と機能を説明する。
- 2) 消化器、呼吸器、循環器、免疫性器官の各器官について構造と機能を説明する。
- 3) 内分泌器、泌尿生殖器、感覚器、中枢神経系の各器官について構造と機能を説明する。
- 4) 歯と歯周組織および口腔粘膜、口腔腺の種類とそれらの微細構造を説明する。
- 5) 顔面および口腔の発生と加齢変化を説明する。

## 4. 講義形態

講義を主体として、媒体には穴埋めプリント、スライド、コンピューター画像、教科書、参考図書を用いて、細胞や組織像について説明を加える。

## 5. 時間外学習

予習：事前に講義当日の授業内容に関して、教科書を一読する。(20分)

復習：講義ノートとアトラスや教科書を照らし合わせ、細胞や組織の特徴と機能を把握する。(40分)

その他：オフィスアワーを活用して疑問点を解決する。

## 6. 評価方法

総合的評価として、組織学では総論(前期中間試験)と各論(前期定期試験)、口腔組織学では歯の三硬組織と歯髄(後期中間試験)、歯周組織、口腔発生学および口腔諸器官・加齢変化(後期定期試験)において、計4回の記述試験(各25%)を行い、65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

磯川桂太郎, 渡邊弘樹 他著 「組織学・口腔組織学」第4版 わかば出版 2013

## 8. 参考書

Alan Stevens 著 内山安男 他訳 「人体組織学」原書第2版 南江堂 2004

久米川正好, 戸田善久, 栗栖浩二郎 他著 「口腔の発生と組織」南山堂 1998

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	4月11日	組織学総論	顕微鏡と標本作製法, 染色法, 組織学研究法 コ:C-1-3)① 国:必修-6-ア-b 総論Ⅲ-1-イ	渡邊 弘樹
2	4月11日	細胞(1)	細胞の微細構造, 核の構造と機能 コ:C-1-3)① 国:必修-6-ア-b 総論Ⅲ-1-イ	〃
3	4月11日	細胞(2)	小胞体, リボゾームの構造と機能 コ:C-1-3)① 国:必修-6-ア-b 総論Ⅲ-1-イ	安部 仁晴
4	4月11日	細胞(3)	ゴルジ装置, リソソーム, ミトコンドリアの構造と機能 コ:C-1-3)① 国:必修-6-ア-b 総論Ⅲ-1-イ	〃
5	4月11日	細胞(4)	核と遺伝情報(DNA複製, 転写, 翻訳) コ:C-1-2)① 国:必修-6-ア-a 総論Ⅲ-1-エ	渡邊 弘樹
6	4月11日	細胞(5)	細胞膜の構造と機能, 接着装置と接着分子 コ:C-1-3)①, -4)① 国:必修-6-ア-b 総論Ⅲ-1-イ	〃
7	4月18日	細胞(6)	細胞骨格の構造と機能 コ:C-1-3)① 国:必修-6-ア-b 総論Ⅲ-1-イ	〃
8	4月18日	細胞(7)	細胞周期と細胞分裂, 分泌と吸収機構 コ:C-1-3)②③④ 国:必修-6-ア-b 総論Ⅲ-1-イ	〃
9	4月18日	上皮組織(1)	上皮の形態的分類とその特徴, 機能 コ:C-2-3)-(1)① 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-オ	〃
10	4月25日	上皮組織(2)	上皮の機能的分類, 基底膜と接着装置 コ:C-2-3)-(1)①, -1-4)① 国:必修-6-ア-c	〃
11	4月25日	腺組織	内分泌腺と外分泌腺(外分泌腺の一般構造と分泌様式) コ:C-2-3)-(1)③ 国:必修-6-イ-a 総論Ⅳ-2-カ, -3-ソ	安部 仁晴
12	4月25日	結合組織(1)	結合組織の分類, 結合組織に存在する線維 コ:C-2-3)-(1)④ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-カ	〃
13	5月9日	結合組織(2)	結合組織に存在する細胞の特徴と機能 コ:C-2-3)-(1)④ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-カ	〃
14	5月9日	軟骨組織(1)	軟骨組織の分類, 特徴および存在部位 コ:C-2-3)-(1)⑤ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-カ	〃
15	5月9日	軟骨組織(2)	軟骨組織の微細構造 コ:C-2-3)-(1)⑤ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-カ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
16	5月16日	骨組織(1)	骨組織の組織学的特徴 コ:C-2-3)-(2)② 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-カ,-2-ア	渡邊 弘樹
17	5月16日	骨組織(2)	骨芽細胞・骨細胞の組織学的特徴と機能 コ:C-2-3)-(2)② 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-カ,-2-ア	〃
18	5月16日	骨組織(3)	破骨細胞の特徴と機能, 骨のリモデリング コ:C-2-3)-(2)③ 国:必修-6-ア-e 総論Ⅴ-3-ケ	〃
19	5月23日	骨組織(4)	骨の発生(膜内骨化と軟骨内骨化)と石灰化機序 コ:C-2-3)-(1)⑥⑦ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅴ-3-ク,コ	〃
20	5月23日	血液	血液とリンパの成分 コ:C-2-3)-(11)①③ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-カ	安部 仁晴
21	5月23日	造血器	造血器と血液成分の形成過程 コ:C-2-3)-(11)②③ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-カ	〃
22	5月30日	筋組織(1)	筋組織の特徴, 骨格筋の微細構造と収縮機構 コ:C-2-3)-(1)⑧,-(2)④ 国:必修-6-ア-c, e	〃
23	5月30日	筋組織(2)	心筋と平滑筋の特徴および微細構造 コ:C-2-3)-(1)⑧ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-キ,-2-ア	〃
24	5月30日	神経組織(1)	神経系総論(神経細胞の分類と構造) コ:C-2-3)-(5)⑦ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-ク	渡邊 弘樹
25	5月30日	神経組織(2)	シナプスの形態学的特徴と神経伝達物質 コ:C-2-3)-(5)⑨⑩ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-ク	〃
26	5月30日	神経組織(3)	中枢神経(大脳, 小脳, 脊髄)の組織学的特徴 コ:C-2-3)-(5)④ 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-ク,-2-キ	市川 博之
27	5月30日	神経組織(4)	末梢神経の組織学的特徴と神経終末の種類 コ:C-2-3)-(4)①② 国:必修-6-ア-c 総論Ⅲ-2-キ	〃
28	6月6日	循環器系(1)	動脈と静脈の組織学的特徴, 毛細血管の構造 コ:C-2-3)-(3)③ 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-エ	渡邊 弘樹
29	6月6日	循環器系(2)	心臓の組織学的特徴, 刺激伝導系の細胞 コ:C-2-3)-(3)① 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-エ	〃
30	6月6日	組織学総論まとめ	細胞, 組織の構造と機能のまとめ	渡邊 弘樹 安部 仁晴

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
31	6月13日	消化器系(1)	消化管の基本構造, 食道, 胃の組織学的特徴 コ:C-2-3)-(6)① 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-イ	井出 吉信
32	6月13日	消化器系(2)	嚥下に関与する組織, 器官の特徴と機能 コ:E-2-1)-⑧ 国:必修-6-イ-b 総論Ⅳ-3-カ	〃
33	6月13日	消化器系(3)	小腸, 大腸の組織学的特徴と機能 コ:C-2-3)-(6)① 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-イ	渡邊 弘樹
34	6月20日	消化器系(4)	肝臓, 膵臓の組織学的特徴と機能 コ:C-2-3)-(6)②③ 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-イ,ケ	〃
35	6月20日	呼吸器系(1)	気道系(鼻腔, 副鼻腔, 気管)の組織学的特徴 コ:C-2-3)-(7)①② 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-ウ	中川 敏浩
36	6月20日	呼吸器系(2)	肺の組織学的特徴, 呼吸運動と調節機構 コ:C-2-3)-(7)①② 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-ウ	〃
37	6月27日	泌尿器系	腎臓, 膀胱の組織学的特徴と機能 コ:C-2-3)-(9)① 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-オ	〃
38	6月27日	生殖器系(1)	女性生殖器の構造と機能 卵巣の特徴と卵胞の発育 コ:C-2-3)-(10)① 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-カ	〃
39	6月27日	生殖器系(2)	男性生殖器の構造と機能 精細管の特徴と精子形成 コ:C-2-3)-(10)① 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-カ	〃
40	7月4日	内分泌器系(1)	内分泌器官の構造とホルモン 甲状腺, 副腎の組織学的特徴 コ:C-2-3)-(8)① 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-ケ	渡邊 弘樹
41	7月4日	内分泌器系(2)	上皮小体, 下垂体, 松果体の組織学的特徴 コ:C-2-3)-(8)① 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-ケ	〃
42	7月4日	免疫系(1)	免疫担当細胞の組織学的特徴と機能 コ:C-3-2)③ 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-3-ア	安部 仁晴
43	7月11日	免疫系(2)	リンパ節, 胸腺, 脾臓の組織学的特徴と機能 コ:C-2-3)-(3)⑥,-(11)① 国:総論Ⅲ-3-ア	〃
44	7月11日	感覚器系(1)	視覚器, 嗅覚器の組織学的特徴と機能 コ:C-2-3)-(4)③④ 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-ク	〃
45	7月11日	感覚器系(2)	味覚器, 聴覚・平衡感覚器の組織学的特徴 コ:C-2-3)-(4)③④ 国:必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-ク	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
46	9月6日	口腔組織学総論	口腔・顔面を構成する組織学的特徴の概説 コ: E-2-2)① 国: 必修-6-イ-a, -ウ-c, d 総論IV-2, IV-4	渡邊 弘樹
47	9月6日	顎・顔面の発生(1)	個体発生, 器官発生 コ: C-2-2)① 国: 総論V-1-ア, イ, ウ	〃
48	9月13日	顎・顔面の発生(2)	鰓弓, 鰓嚢, 鰓溝から形成される組織 コ: E-2-3)① 国: 総論V-1-ア, イ -3-ア, イ	〃
49	9月13日	顎・顔面の発生(3)	顔面部と口蓋の形成 コ: E-2-3)①②③ 国: 総論V-1-ア, イ-3-ア, イ	〃
50	9月20日	顎・顔面の発生(4)	舌, 唾液腺, 甲状腺, 下垂体の発生 コ: E-2-3)⑤ 国: 総論V-3-ウ, エ	〃
51	9月20日	エナメル質(1)	エナメル質の基本構造, 結晶と微細構造 コ: E-3-1)③ 国: 必修-6-ウ-c 総論IV-4-ウ	〃
52	9月27日	エナメル質(2)	エナメル質の成長線, エナメル質の構造物 コ: E-3-1)③ 国: 必修-6-ウ-c 総論IV-4-ウ	〃
53	9月27日	象牙質(1)	象牙質の基本構造と石灰化機構 コ: E-3-1)③ 国: 必修-6-ウ-c 総論IV-4-エ	〃
54	10月4日	象牙質(2)	象牙質の成長線, 象牙質にみられる構造物 コ: E-3-1)③ 国: 必修-6-ウ-c 総論IV-4-エ	〃
55	10月4日	歯髄(1)	歯髄にみられる細胞と線維 コ: E-3-1)④ 国: 必修-6-ウ-c 総論IV-4-エ	〃
56	10月11日	歯髄(2)	歯髄表層の構造, 歯髄の脈管と神経 コ: E-3-1)④ 国: 必修-6-ウ-c 総論IV-4-エ	〃
57	10月11日	セメント質(1)	セメント質の基本構造 コ: E-3-1)⑤ 国: 必修-6-ウ-d 総論IV-4-オ	安部 仁晴
58	10月18日	セメント質(2)	セメント質の分類と微細構造 コ: E-3-1)⑤ 国: 必修-6-ウ-d 総論IV-4-オ	〃
59	10月18日	歯根膜(1)	歯根膜の細胞と機能 コ: E-3-1)⑤ 国: 必修-6-ウ-d 総論IV-4-キ	渡邊 弘樹
60	10月25日	歯根膜(2)	歯根膜線維の種類と走行と血管, 神経 コ: E-3-1)⑤ 国: 必修-6-ウ-d 総論IV-4-キ	〃
61	10月25日	歯肉(1)	歯肉の分類および上皮の組織学的特徴 コ: E-3-1)⑤ 国: 必修-6-ウ-d 総論IV-4-カ	〃
62	11月1日	歯肉(2)	歯肉の細胞と線維の形態学的特徴 コ: E-3-1)⑤ 国: 必修-6-ウ-d 総論IV-4-カ	〃
63	11月1日	歯槽骨	歯槽骨の区分と歯槽骨の形態学的特徴 コ: E-3-1)⑤ 国: 必修-6-ウ-d 総論IV-4-ケ	中川 敏浩
64	11月8日	歯と歯周組織まとめ	歯と歯周組織の構造と組織学的特徴のまとめ	渡邊 弘樹 中川 敏浩 安部 仁晴

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
65	11月8日	口腔粘膜と扁桃	口腔粘膜の分類, 各扁桃の組織学的特徴 コ: E-2-2)① 国: 必修-6-イ-a 総論IV-2-ケ	中川 敏浩
66	11月15日	皮膚と粘膜	皮膚と粘膜の基本構造, 皮膚感覚器の構造 コ: C-2-3)-(1)② 国: 必修-6-イ-a 総論IV-2-ケ	〃
67	11月15日	顎関節	顎関節の構造と組織学的特徴 コ: E-2-1)⑤ 国: 必修-6-イ-h 総論IV-2-シ	〃
68	11月22日	舌と口蓋	舌, 硬口蓋と軟口蓋の組織学的差異 コ: E-2-2)② 国: 必修-6-イ-a 総論IV-2-ウ, エ	安部 仁晴
69	11月22日	唾液腺	大唾液腺, 小唾液腺の組織学的特徴 コ: E-2-2)⑤ 国: 必修-6-イ-a 総論IV-2-カ	〃
70	11月29日	歯の発生(1)	歯胚の構造とその分化 コ: E-3-1)① 国: 必修-7-イ-a 総論V-3-カ	山本 仁
71	11月29日	歯の発生(2)	歯根および歯周組織の発生 コ: E-3-1)① 国: 必修-7-イ-a 総論V-3-キ	〃
72	12月6日	歯の発生(3)	エナメル質の形成と石灰化機序 コ: E-3-1)① 国: 必修-7-イ-a 総論V-3-カ, コ	渡邊 弘樹
73	12月6日	歯の発生(4)	象牙質の形成と石灰化機序 コ: E-3-1)① 国: 必修-7-イ-a 総論V-3-カ, コ	〃
74	12月13日	加齢変化(1)	歯と歯周組織の加齢および退行変化 コ: E-2-3)③ 国: 必修-7-ウ-a, b 総論V-6-ア	中川 敏浩
75	12月13日	加齢変化(2)	唾液腺, 舌, 顎関節の加齢および退行変化 コ: E-2-3)③⑤ 国: 必修-7-ウ-c, f, i, j 総論V-6-ア	〃

# 口腔組織学実習

科目責任者：渡邊 弘樹

担当教員：渡邊 弘樹, 中川 敏浩, 安部 仁晴, 山本 仁 (客員教授), 大友 友昭 (非常勤講師)

## 1. 科目の概要

近年の歯科医学は、種々の疾患の原因を探求し病状を把握すること、更にはエビデンスに基づいた治療方針と病状の転帰を理解することが求められている。人体の正常構造と機能の理解なくしては、病変さらには治療方針を理解し把握することは不可能なことから、その基盤となる組織学、口腔組織学の修得が重要となる。本実習は、総論としての上皮、結合、筋、神経の構造について、各論として消化器、呼吸器、循環器、内分泌、免疫、泌尿生殖器について、口腔組織学として歯牙、歯周組織、舌、唾液腺、口蓋、口腔粘膜、扁桃、歯牙発生について実習する。本実習は、講義で学んだ内容を自分自身の目で確認し、理解を深めることが主たる目的である。

## 2. 一般目標

人体と口腔諸器官における特徴と機能を理解するために、光学顕微鏡を用いて、細胞、組織の正常構造、歯と歯周組織をはじめとする口腔諸器官の正常微細構造、それらの発生過程の知識を修得する。

## 3. 到達目標

- 1) 上皮、腺、軟骨、骨、筋、血液、血管、神経の各細胞と組織、さらに骨発生について正しい診断と細部の名称を説明する。
- 2) 消化器系、呼吸器系、内分泌系、泌尿生殖器系、感覚器系、中枢神経系の器官について、その組織標本を診断し、各構成成分の名称と機能を説明する。
- 3) 歯牙研磨標本と脱灰標本を観察し、エナメル質、象牙質、セメント質の微細構造を説明する。
- 4) 歯周組織の微細構造の特徴を説明する。
- 5) 歯牙発生の標本からエナメル質、象牙質、セメント質、歯周組織の形成機構を読み取る。
- 6) 口腔粘膜、唾液腺、舌、口蓋、扁桃など口腔諸器官の微細構造と機能を結びつけ説明する。

## 4. 講義形態

受動的方法として毎回実習内容を示すモニター説明を中心とした実習前講義を受け、その後、能動的方法として各種細胞、組織の形態学的特徴を把握し、スケッチ実習を行う。なお、媒体は光学顕微鏡を使う。さらに教科書、参考図書、スライド、コンピューター画像、講義に使ったプリント等を使用する。

## 5. 時間外学習

- 予習：「組織学・口腔組織学実習の指針」(教室作成)を一読し、当日の実習内容を把握する。(20分)  
 復習：実習で描いた図と教科書やアトラスの図とを比較し、講義で学んだ内容の理解を深める。(40分)  
 その他：実習の指針に沿った内容で、毎回小テストを行うので、内容は必ず把握しておく。

## 6. 評価方法

組織学および口腔組織学の実習終了時に行う筆記試験、モニター試験、スケッチ試験にて評価を行う。試験の合計点数(80%)に、出席状況と実習態度(10%)および提出したスケッチ帳の採点(10%)を加え最終評価とし、65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

Paul R. Wheeler 著 柴崎 晋 監訳 「カラーアトラス組織学」西村書店 2010  
 磯川桂太郎 他 編 「カラーアトラス口腔組織発生学」第4版 わかば出版 2016  
 「組織学・口腔組織学実習の指針」 教室作成

## 8. 参考書

相磯貞和 訳 「人体組織図譜」原書第11版 南江堂 2011

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	9月6日	上皮組織 筋組織	単層円柱上皮, 多列線毛上皮, 重層扁平上皮 平滑筋, 骨格筋, 心筋 コ: C-2-3)-(1)①⑧ 国: 必修-6-ア-c, e 総論Ⅲ-1-オ, キ	渡邊 弘樹 中川 敏浩 安部 仁晴
2	9月13日	軟骨組織 骨組織・骨の発生	硝子軟骨, 弾性軟骨, 線維軟骨 骨の研磨標本および膜内骨化, 軟骨内骨化 コ: C-2-3)-(1)⑤⑥, -(2)② 国: 必修-6-ア-c, e 総論Ⅲ-1-カ V-3-ク, ケ	渡邊 弘樹 中川 敏浩 安部 仁晴 大友 友昭
3	9月20日	消化器系①	食道, 胃, 小腸, 大腸 コ: C-2-3)-(6)① 国: 必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-イ	〃
4	9月27日	消化器系② 泌尿器系 内分泌系	肝臓, 膵臓, 腎臓, 副腎 コ: C-2-3)-(6)②③, -(8)①, -(9)① 国: 必修-6-ア-e 総論Ⅲ-2-イ, オ, ケ	渡邊 弘樹 中川 敏浩 安部 仁晴
5	10月4日	呼吸器系 中枢神経系	気管, 肺, 小脳, 脊髄 コ: C-2-3)-(5)④, -(7)①② 国: 必修-6-ア-e 総論Ⅲ-1-ク Ⅲ-2-ウ, キ	〃
6	10月11日	免疫系	リンパ節, 脾臓, 胸腺 コ: C-2-3)-(11)① 国: 総論Ⅲ-3-ア	〃
7	10月18日	血液	血液の塗抹標本 コ: C-2-3)-(11)③ 国: 必修-6-ア-c 総論Ⅲ-1-カ	〃
8	10月25日	一般組織のまとめ	各組織と各器官系のまとめ	〃
9	11月1日	歯の研磨標本	エナメル質, 象牙質, セメント質の微細構造 コ: E-3-1)③ 国: 必修-6-ウ-c, d 総論Ⅳ-4-ウ, エ, オ	〃
10	11月8日	歯の脱灰標本	歯髓の構造と細胞および血管, 神経線維 コ: E-3-1)④ 国: 必修-6-ウ-c 総論Ⅳ-4-エ	〃
11	11月15日	歯周組織	歯根膜, 歯肉, 歯槽骨の微細構造 コ: E-3-1)⑤ 国: 必修-6-ウ-d 総論Ⅳ-4-オ, カ, キ, ケ	〃
12	11月22日	口唇 軟口蓋 舌	口唇の区分および付属器官 軟口蓋と舌乳頭 (味蕾)の組織学的特徴 コ: E-2-2)①② 国: 必修-6-イ-a 総論Ⅳ-2-ウ, エ, ケ	渡邊 弘樹 中川 敏浩 安部 仁晴 大友 友昭
13	11月29日	歯の発生	蕾状期, 帽状期, 鐘状期の歯胚 石灰化に伴う細胞の分化 コ: E-3-1)①, C-2-3)-(1)⑦ 国: 必修-7-イ-a 総論Ⅴ-3-ア, イ, カ, キ	渡邊 弘樹 中川 敏浩 安部 仁晴 山本 仁
14	12月6日	唾液腺	耳下腺, 顎下腺, 舌下腺の組織学的差異(終末部, 介在部, 線条部, 導管の細胞と構造) コ: E-2-2)⑤ 国: 必修-6-イ-a 総論Ⅳ-2-カ	渡邊 弘樹 中川 敏浩 安部 仁晴
15	12月13日	口腔組織学のまとめ	歯と歯周組織および口腔諸器官のまとめ	〃

# 口腔生理学

科目責任者：川合 宏仁

担当教員：川合 宏仁, 大須賀謙二, 古山 昭, 富田 祐介 (非常勤講師),  
鈴木 紀子 (非常勤講師), 渡部 喜道 (非常勤講師)

## 1. 科目の概要

生理学は、細胞から個体の行動にいたる各レベルの種々の生体機能および機構を対象として正常な状態における生命現象の機序について学ぶことを目的とした科目である。ヒトは生命を維持するための生体恒常性が乱され、その修復が困難な時に病気になる。それゆえ、正しい治療や予防措置を施すためには、病気の原因や患者の状態を正確に把握していなければならない。そのためには生体の正常な基本的機能を学び知っておくことが不可欠であり、それらの知識なくして病理学や薬理学などを正しく理解することとはできないと言ってよい。講義には、近年の分子生物学や細胞生物学の著しい進展にともなった新しい内容が随時盛り込まれる。講義の各論は相互に密接な関連をもち、独立したものではないことを銘記すべきである。また生体機能は合理的に構成され、多くの場合に論理的に説明できる。

歯科医として、生理学は必要不可欠な科目である。生理学を知ることなく麻酔学や補綴学、あるいは口腔外科学を学ぶことはできない。この授業では、臨床医として最低限の正常な体の仕組みを理解し、把握することを目標とする。従って、学習に際しては、基礎的事項を必ず記憶してから「理解」をすることが大切である。

本科目では、顎・口腔・顔面領域の器官およびそれらと密接な関係をもつ器官の機能に関する基本的事項については重点的に充分な理解をすることが肝要である。

本科目の行動目標としては、種々の生命現象を営む生体の機構、特に顎・口腔・顔面領域の機構について適切な生理学用語を用いて説明でき、また、各器官の協調活動によって個体の健康が維持されていること、および歯科診療において対象となる疾患の病態生理学の基礎を理解できるようにすることである。

## 2. 一般目標

臨床歯科学を学習する基盤を構築するために、生体機能、生命現象の機序を理解する。

## 3. 到達目標

- 1) 生命現象を営む生体の機構を説明できる。
- 2) 各器官の協調活動を説明できる。
- 3) 歯科疾患の病態生理を説明できる。

## 4. 講義形態

講義を主体として、適宜、プリントやスライドを用いた視覚的素材を活用し、人体の構造、詳細な構築およびそれらの機能に関して説明を加えながら進めていく。前期の週2回の講義は生理学概論、一般生理学および生理学実習に関係する口腔生理学について行い、後期の週2回の講義は一般生理学および口腔生理学について行う。

## 5. 時間外学習

予習：シラバスを確認して、次回の講義内容について教科書・参考書で予習を行う。(30分)

復習：講義内容について講義ノート(プリント)・教科書・参考書で復習を行う。(30分)

その他：

## 6. 評価方法

前・後期それぞれの小テスト(30%)、前期2回(中間テストを含む)と後期1回の定期試験(60%)、出席および授業態度・貢献度(10%)により評価し、65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

和泉博之・浅沼直和 編 「ビジュアル生理学・口腔生理学」第3版 学建書院 2014

森本俊文・山田好秋 ほか編 第6版「基礎歯科生理学」医歯薬出版 2014

## 8. 参考書

貴邑富久子・根来秀雄 著 改訂第6版「シンプル生理学」南江堂 2008

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	4月5日	口腔生理学総論(I)	口腔機能の意義および特徴 コ:E-2-2) 国:総論IV-1~5	古山 昭
2	4月5日	口腔生理学総論(II)	顎・口腔・顔面領域の機能と全身機能との関係 コ:E-2-2) 国:総論IV-1~5	〃
3	4月6日	生理学総論(I)	細胞生理学, 器官生理学及び口腔生理学を学ぶ意義と, 基礎医学の土台としての生理学について コ:C-1-3) 国:総論III-1~2	大須賀謙二
4	4月6日	生理学総論(II)	人体を構成する物質, 細胞の構造と機能, 特に膜の果たす役割 コ:C-1-3) 国:総論III-1~2	〃
5	4月12日	口腔生理学総論(III)	硬口蓋・歯肉・口唇・頬粘膜・軟口蓋・口腔底・舌下面の役割 コ:E-2-2) 国:総論IV-2-ア~オ, -4-ア~コ	〃
6	4月12日	口腔生理学総論(IV)	舌の特性と菌種の役割 コ:E-2-2) 国:総論IV-2-ア~オ, -4-ア~コ	〃
7	4月13日	生理学総論(III)	生体の成り立ち, 生体機能の測定法 コ:C-1-3) 国:総論III-1~2	古山 昭
8	4月13日	生理学総論(IV)	物質輸送のメカニズム, 生体電気について コ:C-1-3) 国:総論III-1-イ	〃
9	4月18日	血液(I)	血液の役割 コ:C-2-3)-(11) 国:総論III-1-カ	大須賀謙二
10	4月18日	血液(II)	細胞成分の種類と役割, 血漿成分と機能 コ:C-2-3)-(11) 国:総論III-1-カ	〃
11	4月18日	興奮性組織(I)	興奮性細胞の基本動作 コ:C-2-3)-(2), (5) 国:総論III-1-キ, ク	古山 昭
12	4月18日	興奮性組織(II)	刺激と興奮のしくみ コ:C-2-3)-(2), (5) 国:総論III-1-キ, ク	〃
13	4月19日	循環(I)	体循環と肺循環, 血管の特性 コ:C-2-3)-(3) 国:総論III-2-エ	川合 宏仁
14	4月19日	循環(II)	心臓の構造と心筋の特性, 刺激興奮伝達系, コ:C-2-3)-(3) 国:総論III-2-エ	〃
15	4月20日	興奮性組織(III)	イオンチャネル, 活動電位発生のメカニズム コ:C-2-3)-(2), (5) 国:総論III-1-キ, ク	古山 昭

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
16	4月20日	興奮性組織(Ⅳ)	興奮伝導のメカニズム コ: C-2-3)-(2), (5) 国: 総論Ⅲ-1-キ, ク	古山 昭
17	4月26日	循環(Ⅲ)	血圧と心拍の調節 コ: C-2-3)-(3) 国: 総論Ⅲ-2-エ	川合 宏仁
18	4月26日	循環(Ⅳ)	体循環の調節 コ: C-2-3)-(3) 国: 総論Ⅲ-2-エ	〃
19	4月27日	シナプス伝達	シナプスの種類と構造, 伝達の特徴, 神経伝達物質 コ: C-2-3)-(5) 国: 総論Ⅲ-1-ウ, キ, ク	古山 昭
20	4月27日	骨格筋の収縮	骨格筋の構造, 効果器としての役割, 筋収縮の分子メカニズム コ: C-2-3)-(2) 国: 総論Ⅲ-1-キ	〃
21	5月10日	呼吸(Ⅰ)	呼吸器の形態と呼吸運動 コ: C-2-3)-(7) 国: 総論Ⅲ-2-ウ	川合 宏仁
22	5月10日	呼吸(Ⅱ)	ガスの交換・運搬, 肺気量 コ: C-2-3)-(7) 国: 総論Ⅲ-2-ウ, キ	〃
23	5月11日	骨格筋の収縮(Ⅰ)	骨格筋の構造, 効果器としての役割 コ: C-2-3)-(2) 国: 総論Ⅲ-1-キ	古山 昭
24	5月11日	骨格筋の収縮(Ⅱ)	筋収縮の分子メカニズム コ: C-2-3)-(2) 国: 総論Ⅲ-1-キ	〃
25	5月17日	顎運動(Ⅰ)	咀嚼筋と顎関節の役割 コ: E-2-1)-⑤, ⑥ 国: 総論Ⅳ-1-イ, -3-ウ	〃
26	5月17日	口唇・頬・顔面・舌運動	口唇・頬・顔面筋運動の神経・筋機構, 舌反射, 舌運動の神経・筋機構 コ: E-2-2) 国: 総論Ⅳ-3-エ, オ, カ, サ	〃
27	5月18日	味覚(Ⅰ)	味覚受容機構と中枢機序 コ: E-2-2)-① 国: 総論Ⅳ-1-エ, -3-シ	鈴木 紀子
28	5月18日	味覚(Ⅱ)	味覚障害と歯科臨床における味覚 コ: E-2-2)-① 国: 総論Ⅳ-1-エ, -3-シ	〃
29	5月24日	感覚(Ⅰ)	感覚受容器と感覚の種類, 感覚神経, 体性感覚(触・圧・温度・痛覚) コ: C-2-3)-(4) 国: 総論Ⅲ-2-ク	古山 昭
30	5月24日	感覚(Ⅱ)	特殊感覚(視覚, 聴覚, 平衡感覚・嗅覚) コ: C-2-3)-(4) 国: 総論Ⅲ-2-ク	〃
31	5月25日	呼吸(Ⅲ)	呼吸中枢と呼吸運動の調節 コ: C-2-3)-(7) 国: 総論Ⅲ-2-ウ, キ	川合 宏仁
32	5月25日	内分泌(Ⅰ)	ホルモンの種類と受容・作用機序 コ: C-2-3)-(8) 国: 総論Ⅲ-2-ケ	大須賀謙二
33	5月31日	顎運動(Ⅱ)	顎運動の神経・筋機構 コ: E-2-1)-⑥ 国: 総論Ⅳ-1-イ, エ, -3-ア	古山 昭

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
34	5月31日	自律機能(Ⅰ)	自律神経系の構造, 性質 コ: C-2-3)-(5) 国: 総論Ⅲ-2-キ	古山 昭
35	6月1日	内分泌(Ⅱ)	ホルモンの働きと機能, 生体恒常性の液性調節 コ: C-2-3)-(8) 国: 総論Ⅲ-2-ケ	大須賀謙二
36	6月1日	内分泌(Ⅲ)	神経-液性調節の仕組み, 性ホルモンの役割, 妊娠 コ: C-2-3)-(8) 国: 総論Ⅲ-2-ケ	〃
37	6月7日	自律機能(Ⅱ)	自律神経の中枢性調節 コ: C-2-3)-(5) 国: 総論Ⅲ-2-キ	古山 昭
38	6月7日	運動(Ⅰ)	随意運動, 脊髄反射と姿勢反射 コ: C-2-3)-(5) 国: 総論Ⅲ-2-ア	〃
39	6月8日	唾液(Ⅰ)	唾液の種類と性状, 分泌機構と機能 コ: E-2-2)-① 国: 総論Ⅳ-1-エ, -3-ソ, -5-ア	大須賀謙二
40	6月8日	唾液(Ⅱ)	唾液の生成機序, 唾液腺の代謝と血流, 唾液と口腔疾患 コ: E-2-2)-② 国: 総論Ⅳ-1-エ, -3-ソ, -5-ア	〃
41	6月14日	運動(Ⅱ)	運動制御のしくみ, 運動中枢と大脳基底核 コ: C-2-3)-(5) 国: 総論Ⅲ-2-ア, キ	古山 昭
42	6月14日	運動(Ⅲ)	脳幹と小脳の機能, 大脳皮質 コ: C-2-3)-(5) 国: 総論Ⅲ-2-キ	〃
43	6月15日	嚥下と嘔吐	嚥下運動の特徴と中枢性機序, 嘔吐の特徴と発生機序 コ: E-2-1)-⑧ 国: 総論Ⅳ-3-カ, キ	〃
44	6月15日	咀嚼(Ⅰ)	咀嚼の生理的意義, 咀嚼運動 コ: E-2-1)-⑥ 国: 総論Ⅳ-3-ア, ウ, オ	〃
45	6月21日	顎・口腔・顔面の体性感覚(Ⅰ)	歯髄感覚と歯痛, 歯根膜感覚 コ: E-2-2)-① 国: 総論Ⅳ-4-エ, キ	渡部 喜道
46	6月21日	顎・口腔・顔面の体性感覚(Ⅱ)	舌・口腔粘膜・口唇・顎筋・顎関節および顔面皮膚の体性感覚 コ: E-2-2)-① 国: 総論Ⅳ-2-エ, ケ, シ, -3-ス, セ	〃
47	6月22日	排泄(Ⅰ)	ネフロン働き, 尿の生成, 再吸収と分泌, コ: C-2-3)-(9) 国: 総論Ⅲ-2-オ	大須賀謙二
48	6月22日	排泄(Ⅱ)	細胞外液量の調節と浸透圧の調節 コ: C-2-3)-(9) 国: 総論Ⅲ-2-オ, ケ	〃
49	6月28日	連合系	感覚-運動連合系の役割 コ: C-2-3)-(5) 国: 総論Ⅲ-2-ア, キ, ク	古山 昭
50	6月28日	脳と行動(Ⅰ)	大脳皮質の機能局在, 情動と本能行動 コ: C-2-3)-(5) 国: 総論Ⅲ-2-キ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
51	6月29日	排泄(Ⅲ)	ホルモン, 排尿の神経機序 コ:C-2-3)-(9) 国:総論Ⅲ-2-オ,ケ	大須賀謙二
52	6月29日	消化と吸収(Ⅰ)	消化と吸収の意義 コ:C-2-3)-(6) 国:総論Ⅲ-2-イ	〃
53	7月5日	脳と行動(Ⅱ)	大脳辺縁系, 視床下部, 意識 コ:C-2-3)-(5) 国:総論Ⅲ-2-キ	古山 昭
54	7月5日	脳の統合機能	脳波, 睡眠, 記憶 コ:C-2-3)-(5) 国:総論Ⅲ-2-キ	〃
55	7月6日	消化と吸収(Ⅱ)	胃腸の構造と運動および神経支配 コ:C-2-3)-(6) 国:総論Ⅲ-2-イ,キ,ケ	大須賀謙二
56	7月6日	消化と吸収(Ⅲ)	消化液と栄養分の吸収 コ:C-2-3)-(6) 国:総論Ⅲ-2-イ,エ	〃
57	7月12日	咀嚼(Ⅱ)	咀嚼運動の神経・筋機構 コ:E-2-1)-⑥ 国:総論Ⅳ-3-ア,ウ,オ	古山 昭
58	7月12日	咀嚼(Ⅲ)	咬合圧と咀嚼圧, 咀嚼能力の評価 コ:E-2-1)-⑥ 国:総論Ⅳ-3-ア,イ,オ	〃
59	7月13日	歯科臨床と口腔生理(Ⅰ)	歯科臨床からみた口腔生理の重要性について コ:E-2-2) 国:総論Ⅳ-2~5	富田 祐介
60	7月13日	歯科臨床と口腔生理(Ⅱ)	歯科臨床からみた歯科基礎医学の重要性について コ:E-2-2) 国:総論Ⅳ-2~5	〃
61	9月7日	口呼吸と咳・くしゃみ	口呼吸と咳・くしゃみ コ:E-2-2) 国:総論Ⅳ-3-タ	大須賀謙二
62	9月14日	体温調節と代謝	体温調節と代謝の関係, 体温調節中枢 コ:C-2-3)-(5) 国:総論Ⅲ-2-キ,ケ	〃
63	9月21日	心臓機能(Ⅰ)	心電図記録の原理 コ:C-2-3)-(3) 国:総論Ⅲ-2-エ	〃
64	9月28日	神経の興奮伝導(Ⅰ)	活動電位の神経線維および神経束の伝導様式 コ:C-2-3)-(2), (5) 国:総論Ⅲ-1-キ,ク	古山 昭
65	10月5日	神経の興奮伝導(Ⅱ)	神経線維の種類とその機能, 麻酔との関係 コ:C-2-3)-(2), (5) 国:総論Ⅲ-1-キ,ク	〃
66	10月12日	心臓機能(Ⅱ)	血圧測定の記録と循環反射 コ:C-2-3)-(3) 国:総論Ⅲ-2-エ	大須賀謙二
67	10月19日	構音と発声(Ⅰ)	喉頭の構造と発声のしくみ, 発声器官としての口 コ:E-2-2)-⑦ 国:総論Ⅳ-3-コ	〃
68	10月26日	構音と発声(Ⅱ)	言語音形成のしくみ コ:E-2-2)-⑦ 国:総論Ⅳ-3-コ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
69	11月2日	口腔生理学のまとめ(Ⅰ)	口腔機能の総体的な意味 コ:E-2-2) 国:総論Ⅳ-1~5	大須賀謙二
70	11月9日	呼吸機能(Ⅰ)	スパイロメーターと肺気量 コ:C-2-3)-(7) 国:総論Ⅲ-2-ウ,キ	〃
71	11月16日	筋の収縮(Ⅰ)	骨格筋の構造および収縮様式 コ:C-2-3)-(2) 国:総論Ⅲ-1-キ	古山 昭
72	11月30日	筋の収縮(Ⅱ)	骨格筋の疲労, 心筋・平滑筋との比較 コ:C-2-3)-(2) 国:総論Ⅲ-1-キ	〃
73	12月7日	呼吸機能(Ⅱ)	換気障害と肺気量の変化 コ:C-2-3)-(7) 国:総論Ⅲ-2-ウ,キ	大須賀謙二
74	12月14日	口腔生理学のまとめ(Ⅱ)	顎顔面機能の総体的な意味 コ:E-2-2) 国:総論Ⅳ-1~5	〃
75	12月21日	口腔生理学のまとめ(Ⅲ)	顎口腔機能と全身機能との関わり コ:E-2-2) 国:総論Ⅳ-1~5	〃

# 口腔生理学実習

科目責任者：川合 宏仁

担当教員：川合 宏仁, 大須賀謙二, 古山 昭, 加川千鶴世, 辻 満 (非常勤講師), 渡部 喜道 (非常勤講師)

## 1. 科目の概要

生理学実習の意義は、学生が講義で学ぶ事項を目で見えて理解することにある。講義で習得した知識のいくつかの項目について実習を行って自ら実証し、かつ体系化して整理することによりその内容について一層の理解を深めることが大事である。そうは言っても、生体に起こる生理現象は実生活では目で捉えることはほとんど不可能であるのでそれなりの心構えをして実習に取り組んでもらいたい。実習は、動物あるいはヒトを対象にいろいろな道具を使用して生物現象や運動および感覚の機序についてどのようなものであるかを体験することにより、よりよく教科書や講義内容を理解してもらうことを目的としている。

実習を通じて創意工夫を養い、綿密な観察と記録および考察ができるよう訓練する。合理的あるいは論理的な思考力を培うよい機会である。

## 2. 一般目標

生体機能と生命現象の理解を深めるために、全身および口腔の機能について実体験する。

## 3. 到達目標

- 1) 心電図を測定できる。
- 2) 呼吸機能を測定できる。
- 3) 神経の興奮伝導速度を測定できる。
- 4) 筋の収縮機能を説明できる。
- 5) 血圧を測定できる。
- 6) 味覚閾値を測定できる。
- 7) 感覚点を測定できる。
- 8) 2点弁別閾を測定できる。
- 9) 咀嚼能率を測定できる。

## 4. 講義形態

本科目では一般生理学と口腔生理学に関する実習を12コマ行う。学生は3グループに分かれ、各グループ毎に実施する。内容は、口腔生理学を中心として、実験方法が比較的容易な初心者向けの項目が選ばれている。さらに、項目ごとに学生自らが実験・実習を実行する総仕上げの実習を行う。

## 5. 時間外学習

予習：オリエンテーション時に配布した実習予定表を確認し、次回の実習内容の実習書・教科書で予習を行う。(30分)

復習：実習書および提出したレポートの原稿を確認しながら、その日行った項目で不明な点はオフィスアワー等を活用して速やかに解決しておく。

その他：

## 6. 評価方法

全出席を原則として実習態度を加味した実技点(40%)、提出したレポートの評価(30%)、2回の筆記試験(30%)により評価し、65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

「歯科生理学実習書」奥羽大学歯学部口腔生理学教室編 平成26年版

## 8. 参考書

小原昭作 他訳「実験神経生物学」東海大学出版会

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者		
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)			
1	9月7日 ↓ 10月19日	オリエンテーション	生理学実習を行う際の留意事項の伝達 レポート提出方法の説明, 動物実験の3R	川合 宏仁 大須賀謙二 古山 昭 加川千鶴世 辻 満 渡部 喜道		
2		口腔内体性感覚	刺激毛, 針, 熱導子を用いて口腔内体性感覚の種類と分布を調べる。また歯牙の触閾値と位置感覚についても検査する。			
3		咀嚼機能	篩分法により咀嚼能率を測定し, 咀嚼能率を求め, それに基づいて咀嚼能率に影響する因子を考える。			
4		血圧測定	ヒトの上腕動脈における血圧を測定, 心音の聴診を行う。			
5		心電図	ヒトの心電図を各種の導出法により描出し臨床生理学的意味を考察する。			
6		神経束の興奮伝導	カエル座骨神経標本による活動電位の記録を行い, 興奮伝導速度の測定と, 不応期および麻酔効果について検討する。			
7			コ：E-2-2), C-2-3)-(1)~(5) 国：総論Ⅲ-1-ア, エ, キ, 総論Ⅳ-3-オ, セ			
8	10月26日	実習試験(1回目)	実習内容に関する筆記試験	〃		
9	11月2日 ↓	換気機能	スパイロメータを用いて, 時間肺活量を測定する。努力性肺活量や1秒率により換気機能を評価し, 併せて換気機能障害について考察する。	〃		
10	12月14日					
11					骨格筋の収縮	ヒトやカエルの骨格筋収縮観察と筋収縮機構について考察する。
12					味覚	味覚感受性について, 全口腔法, ろ紙法, あるいは電気味覚計により閾値を調べ個人差を検討する。
13						
14		コ：C-2-3)-(2), (4), E-2-2) 国：総論Ⅲ-2-ア, オ, 総論Ⅳ-3-シ				
15	12月21日	実習試験(2回目)	実習内容に関する筆記試験	〃		

# 口腔生化学Ⅰ

科目責任者：加藤 靖正

担当教員：加藤 靖正, 前田 豊信, 鈴木 厚子

## 1. 科目の概要

生化学は代謝という化学的な側面から生体の成り立ちを理解する学問である。暗号化され細胞の核に保存されている遺伝情報は基本的にタンパク質の一次構造でしかないが、生体には脂質や糖質などたくさんの物質から成り立っている。遺伝情報を司る核酸そのものさえ、糖やアミノ酸、リン酸などから合成されているのである。口腔生化学Ⅰでは、一般生化学の内容を中心に学習し、医師やパラメディカルスタッフなどの医療従事者との間で共通の認識を養うことを目的とする。また、3年次で行われる口腔生化学Ⅱを理解するのに必要な知識の整理を行う。

## 2. 一般目標

生体を構成する成分や機能について、個々に理解を深めるとともに、異なる成分同士のつながりやホルモンなどにより巧妙に調節された機能などの分子メカニズムなどを理解する。また、代謝の破たんが原因となる疾患については、その成り立ちを生化学的側面から学ぶ。

## 3. 到達目標

- 1) 生体を構成している主な物質の分子構造と機能について説明できる。
- 2) 酵素の働き、活性調節機構、および酵素反応速度論について説明できる。
- 3) 糖代謝と脂肪酸代謝によるエネルギー産生機序が説明できる。
- 4) 糖新生性、脂質合成の機序を説明できる。
- 5) 代謝の破たんや疾病の成り立ちについて例を挙げて説明できる。

## 4. 講義形態

「スタンダード生化学・口腔生化学（教科書）」の内容を中心に板書主体の講義を行う。適宜、プリント、パワーポイントなどを用いて教授する。小テストを2回行い習熟度の確認を行うとともに、単元毎の振り返り学習を行う。

## 5. 時間外学習

予習：教科書（該当箇所のページ）を読み、講義内容の大枠を把握するとともに疑問点を見出しておく。（30分）

復習：講義内容を整理するとともに、事前に生じた疑問点について解決したかを確認する。

その他：新たに生じた疑問点などについては、教科書の利用や教員への質問等により早期に克服する。

## 6. 評価方法

定期試験（70%）と小テスト（30%）により評価し、65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

スタンダード生化学・口腔生化学 第2版（学研書院）

## 8. 参考書

口腔生化学 第5版（医歯薬出版）

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	9月7日	アミノ酸・蛋白質	基本構造・アミノ酸残基の修飾, フォールディング(P.24-29) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	前田 豊信

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
2	9月14日	酵素反応速度論	ミカエリス・メンテンの式, ミカエリス定数, 酵素反応の阻害, ラインウィーバー・パークのプロット(P.38-45) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	前田 豊信
3	9月21日	補酵素 ビタミンⅠ	補酵素の役割, 脂溶性ビタミンの種類と機能(P.46-48) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	〃
4	9月28日	ビタミンⅡ	水溶性ビタミンの種類と機能(P.48-51) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	〃
5	10月5日	糖質Ⅰ	糖質の定義, 単糖とその誘導体(P.12-17) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	加藤 靖正
6	10月12日	糖質Ⅱ	解糖系, シヤトル, 嫌氣的解糖, 好氣的解糖(P.52-55, 62-65, 255) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	〃
7	10月19日	中間試験①	試験を実施し, 学習効果を確認する。 コ: 国:	加藤 靖正 前田 豊信 鈴木 厚子
8	10月26日	糖質Ⅲ	電子伝達系(酸化的リン酸化), 基質単位のリン酸化(P.54, 66-70) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-b, -d, 総Ⅲ-1-ア	加藤 靖正
9	11月2日	糖質Ⅳ	糖新生性, ペントースリン酸経路, 血糖値維持機構, 糖尿病(P.54-61) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	〃
10	11月9日	脂質Ⅰ	脂質の分類, 細胞膜とリン脂質(P.18-23) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	〃
11	11月16日	脂質Ⅱ	エイコサノイドと炎症(P.92, 160-161) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	前田 豊信
12	11月30日	脂質Ⅲ	脂質の消化吸収とリポ蛋白質(P.80-83) 脂肪酸代謝( $\beta$ 酸化), 飢餓と糖尿病とアシドーシス(P.84-89) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	加藤 靖正
13	12月7日	脂質Ⅳ	脂質の合成(脂肪酸, 中性脂肪, コレステロール)(P.90-101) コ: C-1-1)	〃
14	12月14日	アミノ酸代謝と核酸	尿素サイクル, ヌクレオチドの合成と分解, サルベージ回路, 痛風, Lesch Nyhan症候群(P.74-79, 331) コ: C-1-1) 国: 必6-ア-d, 総Ⅲ-1-ア	〃
15	12月21日	中間試験②	試験を実施し, 学習効果を確認する。 コ: 国:	加藤 靖正 前田 豊信 鈴木 厚子

# 口腔感染免疫学 I

科目責任者：清浦 有祐

担当教員：清浦 有祐, 玉井利代子

## 1. 科目の概要

口腔内の微生物は齲蝕や歯周病の原因となる他に心臓疾患, 糖尿病, 未熟児の出産などの全身疾患にも関係すると考えられている。また, 歯科治療におけるインフェクションコントロールを実行するには, 微生物全般に関する深い理解も必要となる。本科目では, 口腔感染症及び全身感染症の原因となる微生物について講義を行う。さらに微生物の感染に対してヒトは免疫応答と呼ばれる宿主反応を起こすことで, 微生物を排除する。この免疫応答に関しては, それを担う白血球の様々な働きや抗体, 補体や抗菌物質の作用が分子レベルで説明されている。この生体防御のメカニズムについても詳しく説明する。

## 2. 一般目標

- 1) 微生物の種類とその特性及び病原微生物の病原性を理解する。
- 2) 感染の防御手段としての滅菌, 消毒及び化学療法について理解する。
- 3) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を理解する。

## 3. 到達目標

- 1) 微生物の種類とその特性及び病原微生物の病原性を説明する。
- 2) 感染の防御手段としての滅菌, 消毒及び化学療法について説明する。
- 3) 微生物感染に対するヒトの免疫応答を説明する。

## 4. 講義形態

講義室内での担当教員による教科書及び講義プリントを中心とした講義が基本である。講義中に頻繁に学生に質問することで, 双方向性の講義になるように努める。

## 5. 時間外学習

- 予習：毎回の講義ごとに次回の講義内容を伝えるので, 該当箇所の教科書を読んでおくこと。(10分)  
 復習：毎回の講義終了後に, 記載したノートを読み直し, 不完全な部分があれば教科書で補充する。(90分)

その他：

## 6. 評価方法

定期試験の成績 (70%), 講義時間内の試験の成績 (20%), 出席および授業態度・貢献度 (10%) によって評価し, 65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

口腔微生物学—感染と免疫— 第5版 学建書院 2015年 講義・実習解説書 教室作成 2016年

## 8. 参考書

戸田新細菌学 第34版 南山堂 2013年

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	4月8日	微生物学概論	微生物の種類 コ:C-3-1)-① 国:総論VI-6-イ	清浦 有祐
2	4月15日	微生物学概論	微生物の特徴 コ:C-3-1)-① 国:総論VI-6-イ	〃
3	4月22日	細菌の形態	細菌の形, 大きさ コ:C-3-1)-① 国:総論VI-6-イ	〃
4	5月6日	細菌の構造	細菌の構造 コ:C-3-1)-① 国:総論VI-6-イ	〃
5	5月9日	細菌の生理学	細菌の増殖とそれに及ぼす影響 コ:C-3-1)-①, ② 国:総論VI-6-イ	〃
6	5月13日	細菌の遺伝学	細菌の遺伝子伝達機構 コ:C-3-1)-① 国:総論VI-6-イ	〃
7	5月20日	ウイルスの形態	ウイルスの形, 大きさ コ:C-3-1)-① 国:総論VI-6-イ	〃
8	5月27日	ウイルスの構造	ウイルスの構造 コ:C-3-1)-① 国:総論VI-6-イ	玉井利代子
9	6月3日	ウイルスの増殖	ウイルスの増殖 コ:C-3-1)-① 国:総論VI-6-イ	清浦 有祐
10	6月10日	滅菌	滅菌の種類 コ:C-3-1)-③ 国:必修15-ク-a	〃
11	6月17日	消毒	消毒の種類 コ:C-3-1)-③ 国:必修15-ク-a	〃
12	6月24日	感染	感染の種類 コ:C-3-1)-②, ⑤, ⑥ 国:総論VI-6-エ	玉井利代子
13	7月1日	新興感染症	新興感染症の種類 コ:C-3-1)-⑤ 国:総論VI-6-エ	清浦 有祐
14	7月8日	再興感染症	再興感染症の種類 コ:C-3-1)-⑤ 国:総論VI-6-エ	〃
15	7月15日	院内感染	院内感染の原因と予防 コ:C-3-1)-② 国:総論VI-6-エ	玉井利代子
16	9月5日	細菌の病原因子	細菌の持つ病原因子について コ:C-3-1)-② 国:総論VI-6-エ	清浦 有祐
17	9月12日	細菌の内毒素	細菌の内毒素 コ:C-3-1)-② 国:総論VI-6-エ	〃
18	9月26日	細菌の外毒素	細菌の外毒素 コ:C-3-1)-⑥ 国:総論VI-6-エ	〃
19	10月3日	細菌感染症 I	細菌感染症について コ:C-3-1)-②, ⑤, ⑥ 国:総論VI-6-エ	〃

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：), 出題基準記号(国：)	
20	10月17日	細菌感染症Ⅱ	細菌感染症について コ：C-3-1)-②, ⑤, ⑥ 国：総論Ⅵ-6-エ	清浦 有祐
21	10月24日	ウイルス感染症Ⅰ	ウイルス感染症について コ：C-3-1)-②, ⑤, ⑥ 国：総論Ⅵ-6-エ	〃
22	10月31日	ウイルス感染症Ⅱ	ウイルス感染症について コ：C-3-1)-②, ⑤, ⑥ 国：総論Ⅵ-6-エ	玉井利代子
23	11月7日	真菌感染症	真菌感染症について コ：C-3-1)-②, ⑤, ⑥ 国：総論Ⅵ-6-エ	清浦 有祐
24	11月14日	化学療法	微生物に対する化学療法 コ：C-3-1)-④ 国：総論Ⅹ-9-ス	〃
25	11月21日	免疫学概論	免疫学とはどのようなものか コ：C-3-2)-①, ②, ③ 国：総論Ⅲ-3-ア～エ	〃
26	11月28日	自然免疫	自然免疫の特性とそのメカニズム コ：C-3-2)-①, ③ 国：総論Ⅲ-3-ウ	玉井利代子
27	12月5日	獲得免疫	獲得免疫の特性とそのメカニズム コ：C-3-2)-①, ②, ③ 国：総論Ⅲ-3-エ	清浦 有祐
28	12月12日	抗原	抗原の定義とその種類 コ：C-3-2)-①, ②, ③ 国：総論Ⅲ-3-エ	〃
29	12月19日	抗体1	抗体の構造 コ：C-3-2)-② 国：総論Ⅲ-3-エ	〃
30	12月20日	抗体2	抗体の種類 コ：C-3-2)-② 国：総論Ⅲ-3-エ	〃

# 歯科薬理学 I

科目責任者：鈴木 恵子

担当教員：鈴木 恵子

## 1. 科目の概要

歯科薬理学の学習目標は、歯科臨床において正しく薬物を使用できるようになることに加え、患者が他の診療科で処方された治療薬についても十分に理解できる知識を習得することにある。このためには、薬物の作用機序に主体をおく基礎薬理学に加えて、疾患に対する薬物治療を科学的に考究する臨床薬理学の知識も重要である。また、個々の薬物の適応症についても熟知しておく必要がある。本科目では、薬物を生体に投与したときの薬物動態（生体が薬物に及ぼす作用）と薬力学（薬物が生体に及ぼす作用）に関わる基礎薬理学に重点をおいて教授する。

## 2. 一般目標

歯科医療現場で安全かつ適確に薬物を使用するため、生体内に投与された薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬力学（受容体結合、受容体結合後の作用、受容体以外を介する作用）に加えて、それらの副作用及び相互作用に関する基礎薬理学の知識を習得する。

## 3. 到達目標

- 1) 薬物療法について説明できる。
- 2) 薬理作用の基本形式、分類、用量と作用の関係が説明できる。
- 3) 薬物の作用機序を分類し、説明できる。
- 4) 薬物の投与方法を分類し、その特徴を説明できる。
- 5) 薬物の体内動態（吸収、分布、代謝、排泄）と薬効発現の関わりについて説明できる。
- 6) 薬物の併用と相互作用を分類し、説明できる。
- 7) 薬物の副作用と有害作用を説明できる。
- 8) 薬物と医薬品の関連を説明できる（医薬品医療機器等法、日本薬局方、処方箋）。

## 4. 講義形態

理解を深めるために講義プリントを適宜配布する。講義はスライドを中心に行うので、ノートにスライドの要点や、口頭説明内容をきちんと記録する。不明な箇所は、講義中あるいは終了時に質問し、出来るだけ時間内で解決する。

## 5. 時間外学習

予習：シラバスに従って、講義内容に関連する基礎知識（既に他科目で学習した事項）を確認する。（30分）

復習：予習で生じた疑問点あるいは講義中に生じた疑問点が解決されたかどうか吟味する。（30分）

その他：復習時に生じた疑問は、速やかに教員に質問する。

## 6. 評価方法

定期試験（70%）、小試験（30%：3回の小試験の合計）により評価し、65点以上を合格とする。

## 7. 教科書

なし（適宜、講義プリントを配布する）

## 8. 参考書

野村隆英 他 編 「シンプル薬理学」改訂第5版 南江堂 2014

石田 甫 他 編 「歯科薬理学」第5版 医歯薬出版 2010

加藤有三 他 編 「現代歯科薬理学」第5版 医歯薬出版 2012

坂上 宏 他 編 「解る！歯科薬理学」第2版 学建書院 2009

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	9月2日	薬理学総論1	薬理作用の基本形式, 原因療法と対症療法 コ: C-5-2)-①, ② 国: 必修-15-イ-a, ヒ-a, 総論X-9-ア, イ	鈴木 恵子
2	9月9日	薬理学総論2	作用機序①(受容体を介する作用, アゴニストとアンタゴニスト) コ: C-5-2)-③ 国: 必修-15-ヒ-e, 総論X-9-オ	〃
3	9月16日	薬理学総論3	作用機序②(酵素・輸送系に対する作用, 代謝拮抗作用・物理化学的作用) コ: C-5-2)-③ 国: 必修-15-ヒ-e, 総論X-9-オ	〃
4	9月23日	薬理学総論4	用量・反応曲線, 薬物の併用と相互作用①(協力作用と拮抗作用) コ: C-5-2)-④, ⑥ 国: 必修-15-ヒ-f~h, 総論X-9-カ	〃
5	9月30日	薬理学総論5	生理活性物質(神経伝達物質, オータコイド, ホルモン) コ: C-2-3)-(5)-⑩, C-4-4)-① 国: 必修-15-ヒ-e, 総論X-9-オ, シ	〃
6	10月7日	薬理学総論: 小試験	小試験①(総論1~5)とフィードバック	〃
7	10月14日	薬理学総論6	薬物の適用方法, 薬物動態①(吸収, 分布) コ: C-5-3)-①② 国: 必修-15-ヒ-bc, 総論X-9-ウ, エ	〃
8	10月21日	薬理学総論7	薬物動態②(代謝) コ: C-5-3)-② 国: 必修-15-ヒ-c, 総論X-9-ウ, エ	〃
9	10月28日	薬理学総論8	薬物動態③(排泄) コ: C-5-3)-② 国: 必修-15-ヒ-c, 総論X-9-ウ, エ	〃
10	11月4日	薬理学総論9	薬物の併用と相互作用②(薬物動態学的相互作用と薬力学的相互作用) コ: C-5-2)-⑤⑥ 国: 必修-15-ヒ-h, 総論X-9-エ, キ	〃
11	11月11日	薬理学総論: 小試験	小試験②(総論6~9)とフィードバック	〃
12	11月18日	薬理学総論10	薬物の副作用と有害反応, 薬害 コ: A-5-1)-⑤, C-5-4)-① 国: 必修-4-オ-a, 15-ヒ-i, 総論X-9-ケ	〃
13	11月25日	薬理学総論11	医薬品医療機器等法, 医薬品の開発 コ: C-5-1)-①~③ 国: 必修-2-ウ-d, エ-a, 15-ヒ-k, 総論X-9-ツ, テ	〃
14	12月2日	薬理学総論12	医薬品使用上の注意, 処方箋, 服薬指導, 添付文書 コ: E-4-6)-④⑤ 国: 必修-2-ウ-d, エ-ab, 5-ア-a, 15-ヒ-j, 総論X-9-ク, コ	〃
15	12月9日	薬理学総論: 小試験	小試験③(総論1~12)とフィードバック	〃

## 生体材料・歯科材料学 I

科目責任者：岡田 英俊

担当教員：岡田 英俊, 石田 喜紀, 宮崎 隆 (客員教授)

### 1. 科目の概要

歯科材料には金属材料, 無機材料, 有機材料, およびこれらを複合した材料があり, 印象用, 模型用, 義歯床用など多様な形で応用されている。これらの材料の性質は取り扱う人の技術の巧拙で大きく変化する。生体材料・歯科材料学は, これらの材料の成り立ちの基礎的な理論や特性および実際の取り扱い技術を学習する科目である。総論で物理学, 化学, および生物学などの基礎的学力をもとに種々の歯科材料の特徴を学ぶ。各論では臨床で使用される材料であることを踏まえて, 材料毎に所要性質, 構成成分, その役割, 物理化学的および機械的性質などを理解するとともに, それらの取り扱い法について学ぶ。

### 2. 一般目標

生体材料・歯科材料の組成, 特性を学びその正しい使用法を理解する。

### 3. 到達目標

- 1) 歯科修復物を構成する各種の生体材料を説明できる。
- 2) 成形加工に用いる歯科材料と器具の特性および使用法について説明できる。
- 3) さまざまな症例に適応した歯科材料や器具が選定できる。

### 4. 講義形態

要点はプロジェクターを活用し, 視覚素材を多用することで極力図案として記憶出来るようにする。また, 学生は板書の内容, 教科書およびレジュメの書き込みを行い理解を深める。双方向の講義に留意して疑問点を聞き出す。

### 5. 時間外学習

予習：次回の講義内容についてレポートを作製し提出する。(60分)

復習：講義終了後にノート, 教科書, 参考資料の該当する部分を改めて熟読する。(30分)

その他：

### 6. 評価方法

比率を定期試験, 追・再試験の結果 (90%), 受講態度 (レポートの提出を含む: 10%) として評価し, 65点以上を合格とする。なお, 全出席については10%を加点する。

### 7. 教科書

楳本真三 他 「スタンダード歯科理工学第5版」 学建書院 2014年

### 8. 参考書

なし

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ:), 出題基準記号(国:)	
1	9月2日	歯科材料総論(1)	歯科材料の概論 コ: D-1-① 国: 総論XI-1-ア~エ	岡田 英俊
2	9月9日	歯科材料総論(2)	歯科材料の機械的性質 コ: D-1-② 国: 総論XI-1-カ	〃
3	9月16日	歯科材料総論(3)	歯科材料の物理的性質 コ: D-1-②③ 国: 総論XI-1-オ, キ, ク	〃
4	9月23日	歯質の切削	歯の切削による生体への影響・使用機器 回転切削の理論 コ: D-1-④ 国: 総論XI-2-ア~ウ, XI-3-ア	宮崎 隆
5	9月30日	成形修復材(1)	成形修復材の分類と所要性質 コ: D-2-① 国: 総論XI-7-ア	岡田 英俊
6	10月7日	成形修復材(2)	コンポジットレジンの成分, 特性および操作法(1) コ: D-2-① 国: 総論XI-7-ア	〃
7	10月14日	成形修復材(3)	コンポジットレジンの成分, 特性および操作法(2) コ: D-2-① 国: 各論XI-7-ア, XI-10-イ, ウ	〃
8	10月21日	成形修復材(4)	歯質に対する接着理論と歯面処理材 コ: D-2-① 国: 総論XI-7-イ, XI-13-ア, イ, エ	〃
9	10月28日	成形修復材(5)	ガラスアイオノマー系材料の特性と使用法 コ: D-2-① 国: 総論XI-7-ウ, エ	〃
10	11月4日	歯科用印象材(1)	印象採得概説, 印象材の分類および所要性質 コ: D-2-③ 国: 総論XI-4-ア~サ	石田 喜紀
11	11月11日	歯科用印象材(2)	弾性印象材の種類, 成分および性質(1) コ: D-2-③ 国: 総論XI-4-オ, カ	〃
12	11月18日	歯科用印象材(3)	弾性印象材の種類, 成分および性質(2) コ: D-2-③ 国: 総論XI-4-キ, ク	〃
13	11月25日	歯科用印象材(4)	弾性印象材の種類, 成分および性質(3) コ: D-2-③ 国: 総論XI-4-ケ~サ	〃
14	12月2日	歯科用印象材(5)	非弾性印象材の種類と成分, 機能印象材 コ: D-2-③ 国: 総論XI-4-ア~エ	〃
15	12月9日	模型用材料	模型材料の成分, 特性および使用法 コ: D-2-④ 国: 総論XI-5-ア, イ	〃

## 歯冠彫刻実習

科目責任者：清野 晃孝

担当教員：寺田 善博，清野 晃孝

### 1. 科目の概要

歯冠彫刻実習では、解剖学に基づいたヒトの天然歯の形態を、実際に自分の手で造形する技術を習得することを目的とする。歯の欠けた部分は、自然に治癒することはないので、人工的に修復しなければならない。したがって、熟練した歯科医師になるためには、それぞれの歯の形態的な特徴を理解し、実際の形に作り上げる技術が要求される。

### 2. 一般目標

歯の解剖学的形態を理解し、歯科で使用される器材に慣れるために、石膏およびワックスを用いて、歯冠形態を三次元的に造形する技術を習得する。

### 3. 到達目標

- 1) 各歯冠の咬合面・頬側面・舌側面・近心面・遠心面を描記する。
- 2) 自分の彫刻した模型とデモ模型の形態的な違いを指摘する。
- 3) 彫刻刀とエバンズを使用して、石膏およびワックスを自在に彫刻する。
- 4) ワックススパチュラを用いて、跡を残さずにワックスを盛り足す。
- 5) 各歯冠の三次元的な特徴を表した形態を彫刻する。
- 6) 咬合面の小窩裂溝などの細かな形態を再現する。
- 7) 石膏およびワックスの表面を滑らかに仕上げる。

### 4. 講義形態

15×15×100mm角の石膏棒およびワックス棒を使用して、代表的な天然歯の形態を彫刻する。また、歯冠彫刻実習は、歯学部に入學して最初に経験する歯科らしい実習といえるが、同時に全ての臨床科目実習の基本となるものであるから、歯科で頻繁に使用される彫刻刀やスパチュラといった基本的な器具と、石膏やワックスといった基本的な材料の取り扱い方についても学習する。

### 5. 時間外学習

予習：次週の予習として彫刻の宿題を出すので、前もって歯の解剖学的形態や名称等を理解する。(120分)

復習：実習後に再度プリントを見て、歯の解剖学的形態や名称等を復習する。

その他：

### 6. 評価方法

実習試験で彫刻した製作物と、歯のスケッチを採点し、65点以上を合格とする。ただし、各回ごとに提出された製作物および小テストの点数も加味する。また、実習中の態度・身だしなみ・忘れ物・遅刻等によって減点する。

### 7. 教科書

尾花甚一 編 「第2版 最新歯冠彫刻 理論と実際」 医歯薬出版

### 8. 参考書

教室作成のプリント

## 9. 授業内容と日程

回	月 日	タイトル	授 業 内 容	担 当 者
			コアカリ記号(コ：)，出題基準記号(国：)	
1	4月6日	オリエンテーション	実習内容の説明、器材検査、石膏棒による幾何学的形態の彫刻練習 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	寺田 善博 清野 晃孝 ほか
2	4月13日	石膏棒彫刻	上顎右側中切歯の彫刻(デモあり) コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
3	4月20日	石膏棒彫刻	上顎右側中切歯の彫刻 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
4	4月27日	石膏棒彫刻	上顎右側犬歯の彫刻 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
5	5月11日	石膏棒彫刻	上顎右側第一小白歯の彫刻 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
6	5月18日	石膏棒彫刻	自由彫刻 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
7	5月25日	中間試験	石膏棒彫刻による実習の中間試験 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
8	6月1日	石膏棒彫刻	上顎右側第一大臼歯の彫刻(デモあり) コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
9	6月6日	石膏棒彫刻	上顎右側第一大臼歯の彫刻(終了後補充) コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
10	6月8日	石膏棒彫刻	下顎右側第一大臼歯の彫刻 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
11	6月15日	ワックス棒彫刻	下顎右側第一大臼歯の彫刻(デモあり) コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
12	6月22日	ワックス棒彫刻	下顎右側第一大臼歯の彫刻(終了後補充) コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
13	6月29日	ワックス棒彫刻	上顎右側第二大臼歯の彫刻 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
14	7月6日	石膏棒彫刻	自由彫刻 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃
15	7月13日	実習試験	石膏棒彫刻による実習の最終試験 コ：E-3-1)② 国：総論IV-4-ア	〃